

平成23年度研究・教育活動報告

【人間文化学科】

Irwin, Mark

(1) 研究成果

2011年6月, 図書(単著):「Loanwords in Japanese」, John Benjamins Publishing (アムステルダム & フィラデルフィア)

2011年6月, 学会発表(単):「The Rendaku Database: A Mid-Term Report」, 国立国語研究所プロジェクト「日本語レキシコン-連濁事典の編纂」研究発表会, 山形市テルサ

2011年10月, 学会発表(共):「Rendaku in Japanese Dialects that Retain Prenasalization」, Japanese/Korean Linguistics 21, ソウル大学校

2011年12月, 研究論文(単):「Mora Clipping of Loanwords in Japanese」, Journal of Japanese Linguistics 27: 71-81

2011年12月, 学会発表(単):「Replication of Epenthetic Vowels in Japanese Loanwords from the 16th to the 21st Century」, 日本歴史言語学会第一回大会, 大阪大学

2011年12月, 学会発表(単):「Rendaku Dampening and Prefixes」, 国立国語研究所主催 International Conference on Phonetics and Phonology, 京都大学

2011年12月, フィールドワーク(単):「空間的な連濁」, 宮崎市

2012年1月, 特別講演(単):「A Foreign Learner's Nightmare - The Case of Rendaku」, 小樽商科大学

2012年2月, 学会発表(共):「連濁事典と連濁データベース」, 国立国語研究所理論・構造研究系プロジェクト研究成果合同発表会, 国立国語研究所, 東京

(2) 教育, 地域連携等の活動

言語学演習(人文専門), 英語コミュニケーション(上級)(人文共通), 英語コミュニケーション(中級)(人文共通), コミュニケーションスキル英語(C上級)(基盤)を担当。

2011年6月, 出張講義:「外来語」, 大学出前講座, 小牛田農林高校

2011年9月, 出張講義:「英語の方言」, メイフラワーカレッジ出前講義, 寒河江高校

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

特になし。

相沢 直樹

(1) 研究成果

小説と舞台のあいだ——楠山正雄の『その前夜』脚本をめぐる——

山形大学大学院社会文化システム研究科紀要 第8号 平成23年10月

歌の変容——ツルゲーネフの『その前夜』の舞台化をめぐる——

「近代以降のヨーロッパにおける声とテキスト」(平成21年度～平成23年度

科学研究費補助金(基盤研究(C))研究論文集)課題番号:21520311,平成24年3月

浅野 明

(1) 研究成果

- ・著作・論文:なし
- ・「軍隊と社会の歴史」研究会及び「ロシア中世法」に関する研究会に参加,報告を行った。

(2) 地域連携等の活動

- ・担当授業:西洋中世史入門(歴史学),文化環境学(一),西洋史概論(一),西洋史講義(一),西洋史演習(一),西洋史講読(一)
- ・主張講義:山形県立鶴岡中央高等学校(10月12日)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

科学研究費補助金による研究活動(資料収集及び研究会での報告など)が中心であった。これらの成果も含めて,今年度の研究成果は,次年度に公刊される。

足立 一郎

(1) 研究成果

なし

(2) 教育,地域連携等の活動

アジア文化概論 中国文学講義 アジア文化演習 中国語Ⅰ・Ⅱ
アジア文化特論 NHK 山形文化講座講師

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

特になし

阿部 宏慈

(1) 研究成果

1) 論文

阿部宏慈「身体なき声,声なき身体 あるいは近代フランス文学における音声装置(フォノグラフ,電話)の表象——ヴィリエ・ド・リラダンからコクトーまで——」山形大学人文学部研究年報 第9号(平成24年3月)pp. 31-68.

阿部宏慈「メディア化された身体のカロスオーヴァー, Nord-Est (日本フランス語フランス文学会東北支部会報)第4号,平成23年(2011年)5月, pp. 64-69.

2) 分担執筆

阿部宏慈「傷跡の彼方に」『津波の後の第一講』岩波書店, 2012年(平成24年)2月, pp. 27-47.

阿部宏慈「多言語国家フランス」山形大学人文学部篇『遠い方言, 近い方言』山形大学出版会, 2012年3月 pp. 57-68.

(2) 教育, 地域連携等の活動

1) 教育

基盤教育共通科目コミュニケーション・スキル2(フランス語)を担当した。また, 欧米文化論専修ならびに比較文化・表象文化論専修の開講科目を担当し, 両コースの卒業論文指導にあたった。

2) 地域連携活動

山形国際ドキュメンタリー映画祭理事として, 映画祭の運営活動に携わった。また, 映画祭のインターナショナル・コンペティションの作品選考に携わった他, 映画祭期間中は多くのドキュメンタリー映画作家との意見交換や交流を深めた。

山形新聞に「偏愛映画」のコラム等を執筆した。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究については, 研究分担者として参加している「声とテキスト」の研究について, フランスにおける調査結果をもとに, 研究成果を公表した。

教育活動に関しては, 基盤教育共通科目としての初修外国語を担当したほか, 共通科目部門長として科目の運営に携わった。また, 学部のフランス文化論は「第二帝政のバリ」という主題で講義をおこなった。比較文化・表象文化論関連の授業では, 「映像学講義」を担当した。

新宮 学

(1) 研究成果

・海外調査:

2011年6月4~12日 中国唐長安城遺跡調査

2011年8月16日~9月2日 トルコ都城遺跡調査

2011年9月6~14日 中国の河北・内蒙古都城遺址の調査

2012年3月2~4日 韓国済州島都城遺跡調査

2012年3月27日~4月1日 南京・北京の資料調査

・学会報告・講演

招待報告:「洪武の都, 南京城の景勝」明清史夏合宿2011 第Ⅱ部「伝統都市の形成」2011年8月11日 京都市 聖護院

講演:明朝による秀吉「日本国王」冊封の顛末—上杉神社所蔵の「兵部劄」と冠服を手がかりにして— 国士館大学文学部東洋史研究会 2011年11月30日

(2) 教育, 地域貢献等の活動

- 当該年度における授業 (担当授業名)

〔学部〕東洋史概論 (一), 東洋史講義 (一), 東洋史演習 (一), 東洋史講読 (一), 社会科の教材研究 A, 中国の歴史 (歴史学), 卒業論文指導, および外国史概説 (地域教育文化学部兼任)

地域貢献・学会活動

- 模擬授業 「長安から北京へ—東アジア比較都城史研究への招待」2011年7月30日 山形大学オープンキャンパス
- 高校訪問 9月 郡山市内の高校4校を訪問
- 教職免許状講習 (高校地歴・中学社会)「東アジアからみた世界史」8月6日

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動では, 21年度より始まった基盤研究(B)「近世東アジアの都城および都城制についての比較史的総合研究」が最終年度をむかえ, 共同研究の成果をまとめた。また基盤研究(A)「比較史的観点からみた日本と東アジア諸国における都城制と都城に関する総括的研究」(代表者 橋本義則)の分担研究者, および基盤研究(B)「朝鮮史における複都・副都の位置・構造・機能に関する調査研究」(代表者 田中俊明)の連携研究者として, 共同研究に従事した。

池田 光則

(1) 研究成果

〔共著〕「若者の東北方言」(山形大学人文学部編 (2012)『遠い方言, 近い方言』山形大学出版会, pp. 14-25)

(2) 教育, 地域貢献等の活動

(a) 担当授業

- 学部専門教育科目: 言語学概論 (一), 言語学概論 (二), 言語学演習, ラテン語初級
- 教養教育科目: 言語学概論 (言語学), 言語学とその周辺領域 (言語学), 英語
- 大学院: 言語学特論, 言語学特別演習

(b) 公開講座講師: 平成23年度山形大学公開講座〔人文学部〕(2011年6月6日)

(c) 卒業論文指導テーマ

- 日本語におけるネーミングの特徴について
- 日本語における二格とヲ格の語順について
- 山形県村山方言のオノマトベについて

石澤 靖典

(1) 研究成果

(口頭発表)

• 「煉獄という空間—視覚芸術にみるダンテ『神曲』受容の一断面」, 空間史学研究会, 於東北大学文学部, 2011年9月1日。

・「15-16世紀のダンテ受容にみる煉獄の空間性 —その組織化と視覚表象」, 第62回美学会全国大会シンポジウム「『浄罪の場所』表象の東西 —この世・あの世または第三の場所」パネル報告, 於東北大学, 2011年10月16日。

(受賞および成果報告)

・「15世紀フィレンツェにおける美術と地理学 —フランチェスコ・ロッセッリの地図制作と都市イメージ」, 花王芸術・科学財団 平成22年度第5回美術に関する研究奨励賞贈呈式, 於花王株式会社本社, 2011年4月13日。

(2) 教育, 地域連携等の活動

(授業)

- ・基盤教育教養科目「西洋美術の歴史」
- ・学部専門科目「芸術文化演習(二)」「芸術文化実習」

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では, ここ数年おこなってきた美術と都市イメージに関する論考に対し, 花王芸術財団から一定の評価をいただいたことと, 学会発表をきっかけとして西洋における煉獄表象の問題に着手できたことが成果である。後者の内容については今後論文にまとめる予定である。教育面では平成23年10月に本学に着任したことが何ととっても特筆事項であり, 当初は講義や学生指導などの面で手探りの状態が続いたが, 幸い熱心に講義に参加してくれる学生が多かったため, 自分としては楽しく初年度を終えることができた。

磯野 暢祐

(2) 教育, 地域貢献等の活動

- ・基盤教育として, フランス語Ⅰ(前期)を週4コマ, フランス語Ⅱ(後期)を週4コマ, フランス語Ⅲ(前期)を週1コマ担当した。
- ・専門教育としては, 言語学特殊講義(音声学)(前期), 言語学特殊講義(ロマンス語学)(後期), フランス語学演習・中級(前期), フランス文化講読(後期)をそれぞれ週1コマ, 欧米文化基礎(前期)をオムニバス授業で一学期2回分担当した。
- ・大学院では, 音韻論特論Ⅱ(前期)を担当した。

板垣 哲夫

(1) 研究成果

「後期西田幾多郎(1932年11月~1945年6月)における内在と超越」(『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第8号2011年10月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

日本史概論(二), 日本史講義(二), 日本史演習(二), 日本史講読(二), 福沢諭吉再考(歴史学), 江戸時代とは何か(教養セミナー), 社会科の教材研究A

伊藤 豊

(1) 研究成果

- ① “The ‘Pictorial Visibility’ of Writing: A Latent Connection between Ernest Fenollosa’s Epochs and The Chinese Written Character, ” 『山形大学歴史・地理・人類学論集』第13号（山形大学歴史・地理・人類学研究会, 2012年3月）
- ② 「リベラル・ナショナリズムとしての移民同化論—アメリカ合衆国の場合—」, 富沢 克 編著『「リベラル・ナショナリズム」の再検討—国際比較の観点から見た新しい秩序像』(ミネルヴァ書房, 2012年3月)
- ③ 「移民同化論の肯定的考察」, 日本国際文化学会第10回全国大会, 共通論題セッション2: 「変容する国際秩序と文化の展開」における発表（名桜大学, 2011年7月2日）
- ④ 「カタストロフィの地としての『東北』—英語圏におけるそのイメージをめぐって—」, 日本比較文学会北海道支部・東北支部共催 比較文学研究会, ワークショップ「ユートピア／ディストピア／カタストロフィ」におけるパネリスト発表（北海学園大学豊平キャンパス, 2012年3月17日）

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ① 基盤教育: 英語 R, 英語 CR
- ② 専門教育: 欧米文化概論, 文化交流史講義, 欧米文化演習, 人間文化入門総合講義, 比較文化概論, 文化交流史演習
- ③ 教員免許更新講習（8月）, 放送大学山形学習センター客員教員（通年）, 同学習センターにて面接授業（6月&2月）
- ④ 岩手県立高田高校にて出張講義（2011年10月17日, 講義題目「移民について考える」）

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

特になし

伊藤 晶文

(1) 研究成果

[学術論文等]

伊藤晶文（2012）：大隅半島北部のシラス台地を刻む谷の形態と分類. 山形大学歴史・地理・人類学論集, 13,1-12.

[学会発表]

Koiwa, N., Kasai, M. and Ito, A. : Change of Geomorphic environment and salinity condition during the Holocene in the Lake Jusan, northeastern Japan. 2011年7月. XⅧ. INQUA Congress（第18回国際第四紀連合大会）.

葛西未央・小岩直人・伊藤晶文（2011）：化石珪藻群集に基づいた青森県十三湖の砂州地形の発達に関する考察. 2011年10月. 2011年度東北地理学会秋季学術大会.

西城 潔・星 孝平・伊藤晶文・関根良平（2012）：福島市渡利地区における放射線量分布の特

徴—国道114号線沿いでの測定事例—, 2012年3月, 2012年日本地理学会春季学術大会.

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

(後期)

地理学基礎, 環境地理学概論, 地図情報論, 地図情報論演習, 都市地理学調査実習, 地図を楽しむ(教養セミナー)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

平成23年10月に本学に着任したため, 担当授業は後期のみを示した。それ以前は, 鹿児島大学教育学部准教授として研究・教育活動にあっていた。

小熊 正久

(1) 研究成果

[著書]

- ・翻訳(共訳) ハンス・ブルーメンベルク著『コペルニクス的宇宙の生成Ⅲ』
(法政大学出版局, 2011.10.12)。

[論文]

- ・「フッサルにおける「射映」の概念 —表象媒体の研究の一環として—」(山形大学紀要(人文科学)第17巻第3号, H24. 2.)。
- ・「像の媒体性と想像表象 —フッサルの1904/05年講義を手がかりに—」(人文学部研究年報, 第9号, H24. 2)。

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・新潟医療福祉大学において, 「哲学から見た身体論」という題目で講演(H23.2. 7)。
- ・担当授業科目: 「ギリシア思想にみる自然観と人間観」(基幹科目「人間を考える」), 「人間と世界」(基盤教育), 「西洋哲学史」, 「哲学講義一」, 「西洋哲学講読」, 「哲学演習二」(前期), 「哲学演習二」(後期), 「共生人間学一」, 「ギリシア語」(前・後期)。
- ・指導した卒業論文題目: 「他人を愛することは可能か」(アリストテレスの友愛論に関連して), 「自己と他者の関係について」(ミード, レーヴィットなどを参考とした代替不可能性の考察)。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・かなり長期間にわたったブルーメンベルクの著書の翻訳を終えることができた。同書は現象学の問題や自然観・自然環境の考察・技術論といった現代的問題ともつながるので, さらに今後の研究に生かしたい。
- ・フッサルの分析に拠りながら「知覚」と「想像」における表象媒体の問題を考察した。続いて, 想像における「ファンタスマ」と「画像表象」における「画像」という媒体について, そして, 両者に関わる「中立的変様」について考察中である。

- ・前年度からの考察を発展させ、現象学と分析哲学にの観点から「表象媒体」を考察するプロジェクト（人文学部プロジェクト研究）を遂行した。さらに同メンバーで共同研究を続けることができることになったので、個人研究と関連させながら、考察範囲を拡大するきっかけとしたい。

菊地 仁

(1) 研究成果

〔論文〕

- ・「木の下で鳥を指さす人—和歌の視覚・絵巻の聴覚—」（『物語絵・歌仙絵を考える—変容の軌跡（考えるシリーズ2）』, pp. 55-76, 2011年5月）
- ・「能〈阿古屋松〉の遠景—山形の「あこや姫伝説」をどう読むか—」（『観世』, 第79巻2号, pp. 26-33, 2012年2月）

〔書評〕

- ・「鈴木則郎編『平家物語〈伝統〉の受容と再創造』」（『文芸研究』, 第173集, pp. 62-63, 2012年3月）

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔平成23年度の担当授業〕

・前期

人間を考える（基盤教育） /

アジア文化基礎, 日本文学概論, 日本文学講読 /

日本古代中世文化特論, アジア文化特別研究（大学院）

・後期

山形に学ぶ（基盤教育） /

日本古典文学講義, 日本文化講読, 国語の教材研究 /

日本古代中世文化特別演習, アジア文化特別研究（大学院）

〔地域連携等〕

- ・山形大学人文学部公開講座「遠い方言近い方言」, 2011年6月16日
「〈外〉からの方言としての“呪文”（山形の方言—民話と民俗）」
- ・国立能楽堂特別公開講座「世阿弥自筆本と復曲能「阿古屋松」」, 2012年3月13日
講演「歌枕『阿古屋松』をめぐる説話」
- ・放送大学（山形学習センター）客員教員

清塚 邦彦

(1) 研究成果

(a) 研究業績

著書・論文はなし。

(b) その他の研究活動

日本科学哲学会 『科学哲学』編集委員

日本哲学会 『哲学』編集委員

(2) 教育, 地域連携等の活動

(a) 担当授業

(教養教育)

「哲学ってどんなこと? (哲学)」(前・後期)

(専門教育)

「哲学基礎」(後期), 「人間情報科学基礎」(後期), 「論理学概論」(前期),

「情報記号論」(後期), 「共生人間学 (二)」(後期), 「情報記号論演習」(前・後期)

卒論指導担当3名

(b) 出張講義

2011年11月10日 青森高校ドリーム講義「ロボットの心: 機械は考えるか?」

坂井 正人

(1) 研究成果

[口頭発表]

1. 「アンデス文明と環境: ナスカの地上絵をめぐって」(坂井正人)『琉球から環太平洋の文明史を考える』沖縄県立博物館・美術館, 平成23年5月11日。
2. 「山形大学ナスカの地上絵プロジェクト」(坂井正人)『文化遺産国際協力コンソーシアム』, 東京文化財研究所, 2011年6月1日。
3. 「ナスカの地上絵に描かれた鳥類の同定の試み」(江田真毅・山崎剛史・坂井正人)『日本鳥学会大会』, 大阪市立大学2011年9月18日。
4. 14C dating to directly determine absolute dating of human activity on the Nasca Pampa. (Mai Takigami, Masato Sakai, Fuyuki Tokanai, Minoru Yoneda) The 4th East Asia AMS Symposium. The University of Tokyo, 2011年12月16日。
5. Organización del Paisaje en el Centro Ceremonial Formativo de Pacopampa. (Juan Pablo Villanueva, Masato Sakai) Taller Internacional “La complejidad social del Periodo Formativo en los Andes”. Universidad de Asia Este, 2012年3月20日。

[著書・論文・エッセイなど]

1. Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de la Pampa de Nasca (Tercera Temporada). (Masato Sakai, Jorge Olano) Ministerio de Cultura del Perú, pp. 1-235.
2. Monitoring of “Quebrada”, the Dry River Channels, on the Nasca Pampa, Peru. (Isao Akejima and Masato Sakai) Final Report of the ALOS Research Announcement Programs, (DVD-ROM) 1 & 2: 1-7.

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]「モノと人(基幹科目)」, 「文化人類学入門(文化論)」, 「アンデス考古学概論(文化論)」,

「文化人類学・宗教史基礎」, 「比較地域研究概論」, 「文化人類学・宗教史講義 (二)」, 「文化人類学・宗教史演習 (二)」, 「文化人類学・宗教史演習 (三)」, 「文化人類学・宗教史実習 (二)」

[卒業論文] 10名

[地域連携]

NHK 国際放送ラジオ「ここまでわかったナスカ地上絵の謎」(平成23年9月7日放送)

東北学院榴ヶ岡高等学校「ナスカの地上絵」(平成23年10月18日放送)

清真学園 SSH 科学講演会(茨城県鹿嶋市)「山形大学におけるナスカ地上絵研究」(平成24年2月4日)

山形県立楯岡高等学校(キャリアアップセミナー)「山形大学のナスカ地上絵研究」(平成24年2月17日)

山形西ロータリークラブ「山形大学のナスカ地上絵研究」(平成24年3月3日)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

「環太平洋の環境文明史」計画研究 A03「アンデス文明の盛衰と環境に関する学際的研究」(科学研究費補助金・新学術領域研究) および「ナスカ地上絵の学際的研究における次世代研究者養成とネットワーク構築」(頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム) によって、ナスカの地上絵に関する現地調査・国際共同研究を実施した。さらに、ペルー北部高地のパコパンバ遺跡の考古学調査(科学研究費補助金・基盤研究(A)・研究代表者・国立民族学博物館教授・關雄二)に参加して、この遺跡の景観構造に関する調査を継続した。

講義と演習では、世界の諸民族に関する事例を検討することで、文化人類学の基本的な考え方、民族誌の読み方と議論の仕方について扱った。

佐藤 清人

(2) 教育, 地域連携等の活動

教育

担当授業科目: 英語(R), 英語(C), 英米文化論, 英米文学講読, 実践英語(二) など

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

特になし

嶋田 珠巳

(1) 研究成果

[論文等]

「方言のコミュニケーションとアイデンティティアイランド英語とともに考える」, 『遠い方言, 近い方言 山形から世界まで』, 山形大学人文学部編, 山形大学出版会, 46-56頁, 2012年3月.

[学会発表等]

“Non-use, no identity? : The assessment of the “non-use” judgement in “Irish markers” in Hiberno-English”. 東京移民言語フォーラム第1回国際シンポジウム, 東京大学. 2011年5月.

(2) 教育, 地域連携等の活動

実践英語 III, 英語(C)/(R), スタートアップセミナーの授業を担当した。

山形大学公開講座「人文学部」『遠い方言, 近い方言』の一回を担当した(担当回題目:「多様な英語にみる方言の力」)。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

平成23年度後期は, 山形大学海外研究グローイングアッププログラムにより, 英国ケンブリッジ大学にて研究活動を行った(研究課題:「英語の多様性と言語のダイナミズムに関する研究」)。

鈴木 亨

(1) 研究成果

論文

・「変化事象における非選択目的語の意味解釈のしくみ—世界知識と文脈情報の関与」『山形大学人文学部研究年報』第9号, 153-169.

(2) 教育, 地域連携等の活動

・担当授業: 英語 C, 英語 R, スタートアップ・セミナー, 英語学特殊講義, 英語学概論(二), 実践英語(二), 英語語法論特論, 英語語法論特別演習

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 英語の非選択目的語が認可されるしくみについて, 語用論的観点からの一般化として, 動詞のタイプに応じて世界知識と文脈情報の関与のしかたが異なることを明らかにした。

教育面では, 複数の専門授業で時間外の課題として多読レポートを課し, 多面的な英語力の養成に努めた。基盤教育の英語では, 授業内容に応じて内容を復習させる小テストや英作文の課題を毎回課し, 自宅学習を促した。

千葉 清史

(1) 研究成果

著書: Kants Ontologie der raumzeitlichen Wirklichkeit: Versuch einer anti-realistischen Interpretation der Kritik der reinen Vernunft (Kant-Studien Ergänzungshefte Bd. 168), Berlin, Walter de Gruyter, 2012年2月。

学会報告: 「第十回国際カント学会報告」, 日本カント協会編, 『日本カント研究12: カントと日本の哲学』, 理想社, 2011年8月。

研究会発表: “A Kantian Argument against Transcendental Arguments”, Bonn/ Göttingen/St Andrews Kolloquium, 2012年3月。

(2) 教育・地域連携等の活動

なし

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

平成23年度は、研究活動としては特に博士論文の出版のための追加考察・内容補充を行った。さらに、ドイツ・イギリスにおける哲学学会・研究会に積極的に参加し、研究上に必要な人的ネットワークを構成することにも努力した。

富澤 直人

(1) 研究成果

「フェイズ理論に基づく再構築化現象の研究」(科研費助成研究)において、Late Mergeの仕組みと再構築化の相互関係を中心に研究を行った。

(2) 教育、地域連携等の活動

学部：英語学概論(一)、英語学演習(二)

基盤教育：英語(C)、英語(R)、スタートアップセミナー

大学院：英語学特論Ⅱ、現代外国語(英語)Ⅱ

出張講義：酒田西高等学校

富田 かおる

(1) 研究成果

“Phonetic and phonological petit shifts” Bulletin of Yamagata University (humanities) 16: 3, 25-35.

(2) 教育、地域連携等の活動

担当授業

英語学演習、言語学基礎、英語(R)、英語(C)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

言語の生成を主なテーマとし、特に発話の音響分析を基に、英語母語話者の母音フォルマント測定と特徴分析を行った。

中澤 信幸

(1) 研究成果

〔論文〕

・『日台大辞典』と東アジア共通漢字、『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』8, pp. 89-101, 2011年10月

・日本語の歴史と山形方言、山形大学人文学部編『遠い方言、近い方言』(山形大学出版会), pp. 88-99, 2012年3月

〔口頭発表〕

・『日台大辞典』付載「日台字音便覧」の漢音・呉音、日本語学会2011年度春季大会(神戸大学)研究発表, 2011年5月29日

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業〕

・学部専門科目: 日本語 (一), 日本語学概論 (二), 日本語学特殊講義, 日本語学演習, 日本語学講読

・大学院科目: 日本語史特論Ⅱ

・基盤教育科目: スタートアップセミナー, 日本語と他の言語との共生 (文化・行動 B), 日本語の歴史 (言語学)

〔卒業論文〕

「中古和文の連体修飾」『天草版平家物語』における漢語の開合について (以上2本)

〔国際交流〕

・「異文化間コミュニケーションⅠ」における学生の引率 (台湾・中山大学)

〔地域連携〕

・井上ひさし著『私家版日本語文法』を読む, NHK 文化センター山形教室講座, 2011年10月8日・11月12日・12月10日・2012年1月21日・2月18日・3月10日

・山辺町・山形大学連携協力懇談会委員

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

科学研究費 (基盤研究 (C)), 研究課題名: 現代版「日台字音便覧」データベースの整備と「日台基本漢字」発音対照表の構築, 課題番号: 23520544, 研究期間: 平成23~25年度, 研究代表者: 中澤信幸) により、『日台大辞典』付載「日台字音便覧」のデータベースをもとにした現代版「日台字音便覧」データベースを整備した。これに関連する研究発表や論文執筆も行った。一方地域連携については, 新たに井上ひさしの著作に関する講座を開始した。

中村 篤志

(1) 研究成果

論文

・「清朝治下モンゴル社会におけるソムをめぐって〜ハルハ・トシェートハン部左翼後旗を事例として」『東洋学報』第93巻第3号, 1-25頁, 2011年12月

書評

・「書評: 佐藤憲行著『清代ハルハ・モンゴルの都市に関する研究 18世紀末から19世紀半ばのフレイを例に』」『満族史研究』第10号, 109-112頁, 2011年12月

新刊紹介

・岡田英弘著『モンゴル帝国から大清帝国へ』『満族史研究』第10号, 114-115頁, 2011年12月
学会・研究会発表

・「清朝宮城空間とモンゴル王公」近世東アジア比較都城史研究会第4回研究会, 2011年6月26日 (於: 山形大学人文学部)

・「清代モンゴル研究と日記史料——モンゴル王公の北京日記を中心に」東北アジア研究センター共同研究「北アジアにおける帝国統治の遺産に関する研究」平成23年度研究会, 2012年3月21日

(於：東北大学東北アジア研究センター)

(2) 教育・地域貢献等の活動

〔担当授業〕

東洋史講義(二), 東洋史概論(二), 東洋史演習(二), 東洋史講読(二), 歴史学基礎, 文化人類学・宗教史講読(二), モンゴル・遊牧を考える(基盤・教養・歴史学), モンゴル語で読むモンゴル史(基盤・教養・歴史学), スタートアップセミナー(基盤)

〔教育活動〕

- ・卒論指導：中国近世史1名の卒業論文を指導した。

〔地域貢献活動〕

- ・招待講義：米沢女子短期大学史学実習「清朝における皇帝の巡幸」2011年7月28日

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・新宮教授を代表とする科研費基盤研究B「近世東アジアの都城および都城制についての比較史的総合研究」の研究協力者として、清朝の宮城空間の特質をモンゴル史の立場から考察した。
- ・基盤研究A(海外調査)「東北アジアにおける辺境地域社会再編と共生様態に関する歴史的・現代的な研究」(代表：岡洋樹)の研究分担者として、清代モンゴルにおける地域社会の変容、地方都市における文化接触に関する研究を進めた。
- ・若手研究B「清代モンゴル遊牧社会における王公支配と地縁結合」の研究代表者として成果をまとめるとともに、内モンゴル・フルンブイル地域の地縁集団について研究を進めた。
- ・以上の諸研究に応じて、9月に内モンゴル自治区において9日間の調査を行ったほか、北京や東京、山口で資料調査を行った。

中村 隆

①研究成果

研究発表：『『荒涼館』とヴィクトリア朝ジャーナリズム：ヘンリー・メイヒューを中心に』(学会：ヴィクトリア朝東北地区研究会夏季例会：東北学院大学，2011年8月20日)

②教育，地域連携等の活動

基盤教育の英語(R)および(C)では、山形大学の学生ならば、ネット上で24時間アクセスが可能なALC NeAcady 2を予習と復習の基本教材とし、速読(R)とリスニング(C)の練習をした。また、グループワークによる音読、発話練習を繰り返し行い、ナチュラルな英語のリズムを身体で覚えることを重点課題とした。

学部の専門教育について。英文学演習ではイギリス史の入門書を英語で精読した。英文学特殊講義では、図版を通して見るイギリスの結婚をめぐる言説の変遷を論じた。また、欧米文学概論では、イギリスとアメリカの探偵小説の起源を論じた。

地域連携等について。「図版で読み解く英国文化」をテーマとして教員免許講習を担当した。目標評価委員会の入試方法検討部会委員として、仙台圏の高校を中心として、11の高校を訪問し、

報告書をまとめた。

③研究・教育活動に関するコメント

研究面について。ディケンズの『荒涼館』という中期の小説を当時のジャーナリズムと比較することにより、この小説が時代の下層民の現状を暴露するルポルタージュの一側面を担っていたことを論証した。また、ロレンス・ストーンの先行研究を参照しつつ、18世紀と19世紀の英国における結婚観の変遷をあとづけた。研究発表にまとめることはできたが、論文作成まで辿りつかなかったことは反省点である。

教育面について。基盤教育では、ALC NeAcady 2というコンピュータ利用の英語学習を効果的に取り込むことができた。専門教育においては、演習に関しては、英語の厳密な精読に取り組んだ。講義では、英国における結婚と探偵小説という2つの異なるテーマに取り組み、一定の結論を得た。

中村 唯史

(1) 研究成果

[著書]

1. 『今、ソ連文学を読み直すとは：埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書4』（共編著、2012年3月）

[論文]

1. Восприятие Л. Толстого натуралистической школой Японии. Т. И. Бреславец (ред.) «Россия и Япония: гуманитарные исследования». Изд-во Дальневосточного федерального университета, янв. 2012 г. С. 123-133. (『日本自然主義のトルストイ受容』, Т. プレスラヴェツ編『ロシアと日本：人文学的研究』(ロシア極東大学出版局, 2012年1月), 123-133頁)
 2. 「“アウステルリッツの空”を埋める：バフチンのトルストイ観」, 相沢直樹編『近代以降のヨーロッパにおける声とテキスト：平成21-23年度科学研究費補助金基盤研究C研究論文集』, 2012年3月, 51-60頁。
 3. 「ベルギー『昼の星』考（「ソ連文学」の典型としての）」, 野中進・中村唯史編『いま、ソ連文学を読み直すとは：埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書4』, 2012年3月, 47-65頁。
 4. 「ゴリキーの自伝的作品におけるヴォルガの印象の薄さについて」, 『文化空間としてのヴォルガ：スラブ・ユーラシア研究報告集4』（北海道スラブ研究センター）, 2012年3月, 119-126頁。
- [書評・エッセイ等]
1. 「“ソ連文学”史の書き換え：帰還、奪冠、揺らぎ」, 『ロシア文化の方舟：ソ連崩壊から二〇年』(東洋書店, 2011年12月) 112-120頁(執筆項目)
 2. 「“アウステルリッツの空”をめぐって：『戦争と平和』における自然・死・歴史」, 『緑の杖：日本トルストイ協会報』9号(2012年3月) 18-33頁(講演録)
 3. 「書評：高啓『女のいない七月』」, 山形新聞, 2012年3月20日, 11頁
 4. 山形新聞文化欄コラム「〈ことばの杜〉へ」:「梅崎春生『いなびかり』(2011年6月11日)」, 「太宰治『新樹の言葉』(同8月6日)」, 「オリガ・ベルギー『昼の星』(同10月1日)」, 「室生犀

星『雪くる前』（同11月26日）」、「ラスル・ガムザトフ『鶴』（2012年1月28日）」、「中野重治『わかれ』（同3月24日）」

[口頭発表]

1. Восприятие Л. Толстого «натуралистической школой» Японии, 国際会議 «Россия и Япония: гуманитарные исследования», 於ロシア連邦ウラジオストク市, 連邦極東大学, 2011年9月9日
2. ソ連文学の一底流について, 日本ロシア文学会第61回研究発表会ワークショップ「いま, ソ連文学を読み直すとは」, 於慶應義塾大学日吉キャンパス, 2011年10月9日
3. Заполнить „небо над Аустерлицем”: взгляд М. Бахтина на Л. Толстого, 国際会議 «Жизнь сердца: дух-душа-тело и Я – Ты отношение в русской литературе и культуре XX-XXI веков в европейском контексте», 於ポーランド共和国ルブリン市, 2011年11月18日
4. オリガ・バルゴリーツ『昼の星』に見る「超克」の論理, 日本比較文学会2011年東北大会, 於福島大学, 2011年12月3日

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

教養教育: ロシア語Ⅰ, ロシア語Ⅱ

専門教育: 比較文化・表象文化基礎, 文化環境学(二), ロシア文化論, 表象文化演習, ロシア文化講読

[指導卒業論文テーマ]

「漫画の中の視線」「現代二次創作考」「栗田有起論」「松本隆の詞学」「目の表象」

[地域連携等]

- ・非常勤講師: 宮城学院女子大学(表象文化論)
 - ・北海道大学スラブ研究センター客員研究員
 - ・日本ロシア文学会理事, 国際交流委員長, 学会賞選考委員
 - ・ロシア東欧学会編集委員
 - ・日本比較文学会東北支部役員
 - ・「ロシア語ロシア文学」, 「ロシア・東欧研究」誌査読
 - ・出張講義
1. 宮城県立石巻高等学校 「文学を研究するとはどういうことか」(2011年10月2日)
 2. 岩手県立金ヶ崎高等学校 「映画とアニメから見るソ連社会」(2012年3月14日)
- ・講演
1. 第7回ひろすけ童話学会, 「浜田広介の再話について: トルストイ童話を中心に」2011年8月2日
 2. 日本トルストイ協会第16回総会「“アウステルリッツの空”をめぐって: 『戦争と平和』における然・死・歴史」2011年9月24日
 3. かほく町民大学ひなカレッジ<シネマ学>, 「映画に見るロシア・ソ連の20世紀」2011年12月17日

4. 山形フォーラム「ロシア映画館シリーズ」解説：

- 25回『道中の点検』(2011年4月28日), 26回『愛の奴隷』(同5月19日), 27回『落葉』(同6月17日), 28回『エルミタージュ幻想』(同7月22日) 29回『孤独な声』(同9月2日), 30回『ロマノフ王朝の最期』(同9月30日), 31回『モスクワは涙を信じない』(同10月27日), 32回『ストーカー』(同12月2日), 34回『戦争のない20日間』(2012年2月24日), 35回『追憶のアリア』(同3月20日)
- ・山形新聞「山新文学賞」選評担当(月1回)

- (3) 平成23年度の研究, 教育活動に関するコメント
特になし

西上 勝

(1) 研究成果

[論文]

「画人伝記と『癡癖』」, 山形大学人文学部研究年報, 第9号, 平成24年2月, pp. 11-29

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

研究科：特別研究Ⅰ及びⅡ, 中国中世文化論など

専門教育：中国文学概論など

基盤教育：外国語科目；中国語Ⅰ及びⅡ

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

昨年度に引き続き, 地域連携活動の一環として, 中国語検定試験(日本中国語検定協会)の山形試験場(会場責任者：芦立一郎教授, 年間3回実施)の業務を分担した。

林 雄作

(1) 研究成果

[論文] なし

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業] 研究科：ドイツ近世文化論等(受講者なし)

専門：ドイツ文化購読, ドイツ語会話, 作文(上級), ドイツ文化論

基盤：ドイツ語Ⅰ, 同Ⅱ

[参考] 大学院進学希望者から相談があり, 入学後に必須の学修事項を具体的に解説した。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

- 1) 東北ドイツ文学会(日本独文学会東北支部)の山形地区学会開催が決まり, 代表者に指名された。財政難で周知は十分でなかったが活発な研究発表であった。

- 2) ドイツ語の購読と会話で、発音を徹底的に矯正するとともに、文意の把握の合理的な方法を指導した。(初級では不十分な所があったのかも知れない。推測である。)

福野 光輝

(1) 研究成果

[分担執筆]

- 福野光輝(2011). 社会的公正 展望現代の社会心理学, 誠信書房, 58-80.
福野光輝(2011). 実験法. 高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一(編)人間科学研究法ハンドブック 第2版, ナカニシヤ出版, 187-219.
福野光輝(2011). 社会行動 増地あゆみ(編著)社会でいきる心理学, ミネルヴァ書房, 9-37.
福野光輝(2012). 対人相互作用 岡隆(編著)心理学研究法5 社会, 誠信書房, 145-182.

(2) 教育, 地域貢献等の活動

[担当授業]

- 「調べて書く心理学(教養セミナー)」(前期), 「人間行動の科学(教養科目・文化と社会)」(後期), 「社会心理学演習」(前期・後期), 「心理学実験」(前期), 「心理学特殊実験」(前期・後期), 「行動科学情報処理実習」(前期), 「心理学基礎」(後期), 「社会心理学概論」(東北大学非常勤, 後期)

[教育活動成果]

- 福野光輝×山形大学基盤教育「調べて書く心理学ゼミ」(2011). 微熱大陸(未公開)
[卒業論文指導](うち1名が東北大学大学院文学研究科に進学)
「現代青年における群れ指向について」
「一般的信頼と危険示唆情報がリスク認知に及ぼす影響」
「嬉しい嘘を見抜けるか: 心理的報酬が真偽判断に与える影響」
「食事形態が摂食行動に及ぼす影響」
「『自分のシャイは改善できる』と考える人は本当にシャイなのか: シャイネスの暗黙の自己理論と潜在的シャイネスの関連」
「カテゴリー化の基準による少数派および多数派集団の集団間差別行動」
「不快な発言をされた場合における聞き手の冗談受容を規定する要因: 聞き手としての冗談関係の認知, 話し手の冗談関係の認知の推測に着目して」
[修士論文指導]
「複数対象変化時における注意配分の研究」
[出張講義]
福野光輝(2011). はじめての心理学. (山形県立酒田東高等学校, 山形県酒田市, 2011年7月11日)
福野光輝(2011). はじめての心理学. (山形大学オープンキャンパス模擬講義, 2011年7月30日)
福野光輝(2011). はじめての心理学. (新潟県立巻高等学校, 新潟県新潟市, 2011年10月19日)
福野光輝(2012). はじめての心理学. (宮城県仙台西高等学校, 宮城県仙台市, 2012年3月21日)

福山 泰男

(1) 研究成果

- 『建安文学の研究』(汲古書院, 2012.3) 出版。
- 博士(文学)の学位を東北大学において取得(2011.12)。

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 「異文化間コミュニケーション実習Ⅰ」を2011年8月に台湾・中山大學で実施, 企画・引率を行った。
同実習中, 中山大學・文藻外語學院・琉球大學との4大學セッションによる学生研究発表会を開催した。
- 新たな異文化交流教育カリキュラム開発のため, 2012年3月に北京林業大學, 河南師範大學を訪問, 協議した。企画内容は, 渉外部に提出し, 併せて人文学部国際交流委員会に提案した。
- 河南師範大學との大學間交流協定を計画, 国際交流担当理事に提案, 了承された。
2012年3月に河南師範大學を訪れ, 代理として両学長調印の協定締結に携わった。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

- 博士論文をまとめて著書出版することができた。同書は, 山形新聞書評欄に取り上げられ, 高い評価を得ている。
- 台湾, 中国における異文化教育カリキュラムの新たな開発, 実践を行った。

藤沢 秀光

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業名]

- 学部: アメリカ研究演習, アメリカ研究特殊講義
英語(R)Ⅱ, 欧米文化概論, 人間文化基礎演習
 - 大学院: 英米現代文化論特論, 英米現代文化特別演習
- [地域連携活動(ボランティア)]
- 国際ロータリー第2800地区財団奨学生選考委員
 - 国際ロータリー第2800地区財団ロータリー学友会代表幹事

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

ユダヤ系, 日系といったアメリカの少数民族に関する小説, 演劇, 雑誌, 新聞, 広告, CM, 映画, TV番組, 音楽, スポーツといった, 文字化, 音声化, 映像化された文化的生成物を対象にした研究を行っています。

教育活動としては山形県のロータリークラブの財団奨学生のアドバイザーとして, 奨学金の申請から海外の留学先の大学, 大学院決定までの指導を行っています。ちなみに, 本年度は地元出身者を, 米・ウィスコンシン大学, オーストリア・ウィーン大学, ベルギー・エリザベート王妃音楽大学, スペイン・バルセロナ大学に留学できるように指導した。

古川 英明

(1) 研究成果

- [小論]「知を愛し求めながら生きていくこと」(『渡邊二郎著作集第7巻 ドイツ古典哲学 I』月報7, 筑摩書房, 2011年4月, pp. 5-7)
- [翻訳]グレゴリー・ヴラストス,「ソクラテースのアイロニー」(『山形大学人文学部研究年報』第9号, 2012年2月, pp. 75-111)

(2) 教育, 地域連携等の活動

• 教養教育

哲学・前期 (『弁明』を読む (I))

哲学・後期 (『弁明』を読む (II))

• 専門教育

哲学基礎・後期3回 (「声とアイデア説——メディア論から見たプラトーンの哲学」)

哲学講義・後期 (『弁明』から哲学の成立を考える)

哲学演習 (一)・前期 (ヴラストス: ソクラテースのアイロニー)

哲学演習 (一)・後期 (Kant: Prolegomena)

哲学講読・後期 (M. Walser: Selbstbewusstsein und Ironie, 1. Romantische Ironie)

本多 薫

(1) 研究成果

論文

- 1) 本多薫: パーソナル・コンピュータ用のワイドディスプレイにおける情報表示に関する基礎的研究, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第8号, p. 41-50, 2011.10
- 2) 本多薫, 門間政亮: ナスカ台地におけるラインセンターの配置—モンテカルロ・シミュレーションによる検討—, 山形大学人文学部研究年報, 第9号, p. 1-9, 2012.2

学会発表

- 1) 本多薫, 門間政亮, 本多ふく代: 姿勢の違いが安静時の心拍変動に及ぼす影響, 日本生理人類学会誌, 第16巻特別号 (1), (九州大学), p. 152-153, 2011.6
- 2) 本多薫, 門間政亮: コンピュータ画面の情報表示における課題難易度と反応時間の関係, 日本経営工学会平成23年度秋季予稿集 (岩手県立大学), p. 154-155, 2011.11

(2) 教育, 地域連携等の活動

授業: (教養) 情報処理; (学部) 公務員対策セミナー, 人間文化入門総合講義, 人間情報科学概論, 人間情報科学基礎, 人間情報科学演習, 人間情報科学実習, プログラミング演習; (大学院) 人間情報科学特論II, 心理・情報特別研究II

卒業研究の指導 (人間情報科学専修担当として指導):

- (a) スポーツの多様性に関する研究—Eスポーツの可能性について

修士学位論文の指導

- (a) コンピュータ画面における最適な情報提示に関する研究

地域貢献活動等：

- (a) 研究室訪問受入 (新庄北高等学校) 研究指導
 - (b) 日本経営工学会東北支部 運営委員
 - (c) 日本人間工学会 評議員
 - (d) 日本人間工学会東北支部 幹事
 - (e) 土木学会 地下空間研究委員会 心理小委員会 委員
- (3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

平成23年度は、コンピュータのディスプレイにおける情報表示、ナスカの地上絵の情報科学の視点からの分析などの研究を進めた。また、教育としては、情報科学関連の講義を担当するとともに、清塚邦彦教授との共同で卒業研究の指導、渡邊洋一教授との共同で修士学位論文の指導を行った。

松尾 剛次

(1) 研究業績

著書 (単著 1, 共著 2)

- 1. 単著 『葬式仏教の誕生』平凡社新書, 2011年 8月
- 2. 共著 遊学館ブックス『地域から世界へ 山形のモノづくりを通して』(財)山形県生涯学習財団 (共著), 2011年 9月
- 3. 共著 『道の手帖親鸞 - 親鸞は何をした人だったのか -』河出書房新社 (共著), 2011年 12月

論文 (4)

- 1. 「叡尊教団の河内における展開 - 西大寺直末寺教興寺・寛弘寺と五輪塔 -」(山形大学大学院 社会文化システム研究科紀要 第 8号) 2011年 10月
- 2. 「最上義光をめぐる～新発見の文書を紹介しつつ～」『山形の魅力再発見パート 9』2012年 1月
- 3. 「中世叡尊教団の薩摩国・日向国・大隅国への展開 - 薩摩国泰平寺・日向国宝満寺・大隅正国寺に注目して -」『山形大学人文学部 研究年報 第 9号』, 2012年 2月
- 4. 「鎌倉仏教と非人の救済」『差別と人権問題の正しい認識のために⑩』, 熊本学園大学 (学内講演会記録), 2012年 3月

その他

- 1. 書評「C・ヨルゲンセン, M・F・パヴコヴィック, R・S・ライス, F・C・シュネイ, C・L・スコット『戦闘技術の歴史 近代編』」『山形新聞』2011年 4月 3日
- 2. 「そうだったのか日本仏教」『大法輪』2011年 4月
- 3. 「別冊太陽 日本のこころ182『名僧でたどる日本の仏教』」『榊平凡社』2011年 5月 8日
- 4. 「人はなぜ墓を建てるのか」『本郷』No. 93, 吉川弘文館, 2011年 5月
- 5. 書評「大塚弘紀著『中世禅律仏教論』」『史學雑誌』第120遍 第 6号, 2011年 6月 15日
- 6. 書評「堺屋太一著『三人の二代目』」『山形新聞』2011年 6月 19日
- 7. 書評「平雅行著『歴史のなかに見る親鸞』」『図書新聞』2011年 7月 2日

8. 「法然」『やすらぎ通信2011年夏・秋号』ユーキャン出版事業部、2011年8月（p10）
9. 「葬儀の意味 震災で再確認」『読売新聞』2011年12月10日
10. 対談「こだわりアカデミー」『アットホームタイム』2012年1月20日
11. 記事「やまがた再発見 84, 安達峰一郎 上」『山形新聞』2012年2月5日
12. 記事「やまがた再発見 85, 安達峰一郎 中」『山形新聞』2012年2月12日
13. 記事「やまがた再発見 86, 安達峰一郎 下」『山形新聞』2012年2月19日
14. 書評「藤田和敏著『〈甲賀忍者〉の実像』」『山形新聞』2012年3月18日

(2) 教育, 地域連携等の活動

学生指導 卒論（5本）・修論（1本）指導

修論「怪異学事始 - 犬の怪考 -」

卒論「中世の公家文化」, 「宝治合戦についての - 考察 - 方丈時頼・隆弁を中心に -」「中世における祓の実態について - 鎌倉時代を中心に -」「室町幕府將軍権力について - 考察 - 相国寺と足利義満・義持を中心に -」「最上義光について - 考察 - 灌漑事業, 莊内北館堰を中心に -」

地域連携 山形学企画委員として山形学講座の企画を行った。また, 都市地域学研究所の所長として「山形偉人再発見プロジェクト」を行い, 「安達峰一郎記念世界平和弁論大会」などを実施。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

著書3冊など本年も研究・教育・地域連携において大いに努力した。

三上 喜孝

(1) 研究成果

(論文)

三上喜孝「心経会とカンジョウ坂 - 中近世武家社会の習俗 -」『村山民俗』25, 2011年6月

三上喜孝「石に刻んだ「筆の跡」 - 仏堂落書き歌とその広まり -」『羽陽文化』156, 2011年3月

三上喜孝「石背郡地域における墨書土器の意義について」福島県須賀川市教育委員会『須賀川市文化財調査報告書第60集 栄町遺跡 - 陸奥国岩瀬郡衙の発掘調査報告 -』2012年3月

(学会発表)

三上喜孝「『龍王』銘木簡と古代東アジア世界 - 韓国出土木簡研究の新展開 -」韓国国立中央博物館特別展「文字, それ以後」記念シンポジウム2011年10月14日

(その他)

金相勲「韓国人の起源に関する中高生の意識と『国史』教科書との関係」『山形大学歴史・地理・人類学論集』の解説執筆 (2012年3月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

2011年度における授業 (担当授業名)

基盤教育・教養科目「論争する歴史学」「貨幣からみた日本の歴史」(各2単位)

専門科目「歴史学基礎」「日本史概論(一)」「日本史講義(一)」「日本史講読(一)」「文化財調査実習」

「文化人類学・宗教史講読 (二)」(各2単位)「日本史演習 (一)」(4単位)

大学院「日本古代史特論Ⅱ」「日本古代史特別演習」(各2単位)

卒業論文指導

「日本古代の災害とその対処法についての一考察 - 九世紀の東北地方を中心に -」「古代の怨霊思想に関する一考察」「古代日本の軍団制と武器所有」「奈良時代における交易と商業の考察」

「奈良時代における写経生の実態」「国造制についての一考察」

地域連携活動(審議会, 講演会, ボランティア等)の紹介

山形考古学研究会発表会(於山形市遊学館)講演題「仏堂墨書の世界-県内資料を中心に-」(2012年2月5日)

いいで地域史学習会〔第3講座〕(於飯豊町民総合センター「あーす」研修室)講演題「飯豊町・天養寺観音堂の落書きが語るもの」(2012年2月4日)

朝日カルチャーセンター千葉「古代日本・文字の来た道」第5回「古代地方社会に広がる漢字文化」(2011年12月, 10日)

第28回山形県民俗研究協議会総会(於山形県立博物館講堂)講演題「仏堂墨書と巻数-飯豊町中観音の墨書によせて-」(2011年11月12日)

平成23年度村山民俗学会総会(於霞城セントラル23階山形市民活動支援センター)講演題「石に刻んだ「筆の跡」~上宝沢・王子権現の万年堂によせて~」(2011.6.25)

平成23年度 山形県高等学校社会科教育研究会村山支部大会(於山形県立天童高等学校)講演題「災害・疫病・戦乱の世紀-9世紀の東北地方からみた平安時代-」(2011.5.18)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、韓国に出土文字資料調査のために数度出張し、また、韓国国立中央博物館の特別展記念シンポジウムにおいて韓国語で研究発表をした。また、本学図書館で発見された「高句麗広開土王碑拓本」の調査研究を行い、調査成果を、展示、リーフレット、講演会という形で、広く公開した。さらに、山形県内の民俗学研究者の方々とも共同調査を行い、その成果を県内の民俗学関係の学会で発表した。

教育面では、講読や演習を通じて文献史料の読解に重点を置いたほか、実習(奈良・京都方面)等を通じて生の歴史資料を見る機会を提供した。また、卒業論文の指導にも力を入れた。

元木 幸一

(1) 研究成果

(論文)

「宗教改革期ニュルンベルクの農民祝祭版画の研究」『鹿島美術研究』年報第28冊別冊, 2011年11月, 21~30頁。

「酒宴の表象-ゼーバルト・ベーハム『ケルミス大版画』の分析」『世界の感覚と生の気分』(栗原隆編)ナカニシヤ出版, 2012年3月, 202~222頁。

(研究発表)

「祝祭と感興: 宗教改革時代のドイツ農民祝祭版画を題材に」新潟大学哲学研究会, 2011年9

月

(2) 教育、地域連携等の活動

(授業)

基盤教育基幹科目「美術に見る男女の共生／競生／狂生」教養科目「西洋美術への招待（芸術）」
学部専門科目「芸術文化基礎」「美学・芸術学概論」「芸術文化特殊講義」「芸術文化演習（一）」
「美術史演習」「美学・芸術学演習」「芸術文化実習」「文化環境学（一）」「人間文化入門総合講義」
大学院地域教育文化研究科「美学・芸術学特論」「美学・芸術学特別演習」

(卒論指導)

マックス・エルンスト論, ジャクソン・ポロック研究, ジョヴァンニ・ベッリーニ研究

(地域連携)

「ヨーロッパの年賀：美術の世界に見る」ふすま同窓会新春講演会, 2011年1月

「驚きの名画：美術史の楽しみ方」都市研カフェ, 2011年7月

「お笑い美術館」宮城県古川高校出前講義, 2011年11月

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、前年度の鹿島美術財団からの助成金による「宗教改革期ニュルンベルク農民祝祭版画研究」の成果を2本の論文で仕上げる事ができた。このテーマは、さらに平成24年度以降も、科学研究費を獲得して継続することになった。また、年度後半は小学館新書のための原稿執筆に集中した。初めての新書だったので、どこまで書いたら良いかの加減が分からず、苦勞の連続だった。

教育面では、前期には芸術文化論専修担当教員が1名になったため、普段より過重な授業担当となったが、学生たちの協力でなんとか乗り切ることができた。忙しかった割には授業アンケートの結果もなかなか良好だった。後期には石澤先生が着任され、だいぶ楽になった。石澤先生の着任には学生たちも大喜びで、このところやらないでいた芋煮会を復活し、盛大なる歓迎会を催した。石澤先生は熱心に指導してくださり、大いに助かっている。

卒業論文は、3本ともそれぞれの個性を生かした、とても好感の持てる論文に仕上がった。私の指導が良かったというよりも、各自が意欲的に、そして学問を楽しむ気持ちで取り組んだ成果ではないかと思う。なお、ジョヴァンニ・ベッリーニ研究では、実質的に石澤先生が指導した。

前年度に指導した修士論文(石田志保『ヤン・ファン・エイク作《受胎告知》の床面図像の解釈』)がティーデマン・ふすま賞を受賞した。誇りに思う。なお、石田は、平成23年度の大学院研究紀要に修士論文の一部を発表した。

森岡 卓司

(1) 研究成果

[共著]

1. 山形大学人文学部編『遠い方言, 近い方言 山形から世界まで』山形大学出版会 平成24年3月1日

編集担当(単独)及び収録論文(単著)「はじめに 生きた方言を考えるために」(p 4～p12),
コラム「日本近代文学の中の方言」(p125～p126)を執筆

[記事]

1. 森岡卓司「やまがた再発見」63. 山岸外史, 『山形新聞』平成23年9月4日
2. 森岡卓司「詩人 森英介」Web「置賜文化フォーラム」平成24年1月(24日)

(2) 教育, 地域連携等の活動

[出張講義]

山形県立酒田東高等学校(平成23年7月11日)

宮城県仙台南高等学校(平成23年10月7日)

宮城県白石高等学校(平成23年11月15日)

[公開講座]

森岡卓司「文学史の中の井上ひさし」山形大学特別プロジェクト「井上ひさしの東北」2011年度公開講座「井上ひさしの世界」平成23年11月2日 大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

[論文指導]

卒業論文4名(うち1名が平成24年度ティーデマンふすま賞を受賞)

[授業担当]

「初期村上春樹の世界(文学)」ほか教養教育科目2, 「日本文学演習」ほか専門教育科目5, 「日本近現代文化論特別演習」ほか大学院担当科目2。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

学会活動としては日本近代文学会東北支部運営委員(大会企画担当), 日本比較文学会東北支部運営委員(会報担当), 日本文芸研究会全国委員。

また, 『東北近代文学事典』の編集委員として事典編集に携わった。

学内委員としては公開講座運営委員(2年目)として「遠い方言, 近い方言」と題して公開講座を運営した。

人文学部の行事として, 北京林業大学, 河南師範大学に訪問し, 貴重な交流体験をさせていただきましたことに感謝します。

山崎 彰

(1) 研究成果

・書評

「飯田恭著“Ruppiner Bauernleben1648-1806: Sozial- und wirtschaftsgeschichtliche Untersuchungen einer ländlichen Gegend Ostelbiens”」『社会経済史学』第77巻第1号, 2011年

・シンポジウム企画

2011年度西洋史研究会大会・共通論題「ヨーロッパ・日本・アフリカの農村社会—近世史と人類学」(2011年11月13日, 立教大学)を企画し, 趣旨説明を行う。成果は, 2012年11月刊行予定の『西

『洋史研究』新輯41号に掲載される。

(2) 教育、地域連携等の活動

・基盤教育

「ヨーロッパ史における共生と環境」（基幹科目）、「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」（教養科目）

・専門教育

「歴史学基礎」「西洋史概論（二）」「西洋史講義（二）」「西洋史演習（二）」「西洋史講読（二）」「卒業論文」。以上の他に松本邦彦准教授とともに「地域づくり特別演習（二）」を企画、実施した。

・大学院教育

「ドイツ史特論」「ドイツ史特別演習」を用意したが、今年度は受講者はなし。

・社会連携の分野では、前年度に引き続き、平成23年度山形大学地域貢献事業として、「山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー収蔵作品の歴史的資料としての整理と紹介事業」を実施し、同ライブラリーのロシア、東欧、東ドイツ関係の収蔵作品の調査を行った。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

・科研費（基盤研究C）「創設期マルク経済協会に関する実証的研究」（代表・山崎彰）の第2年度であり、ドイツにおける史料の存在状況について確認を行うとともに、収集した史料の分析を進めた。

・学生有志によるドキュメンタリーライブラリー所蔵作品（映画作品ないしは英語字幕作品）の調査の成果を冊子『映像記録と社会・文化批評』にまとめ、ドキュメンタリー映画祭開催に合わせて、発表した。引き続き、映像記録の教育資料としての可能性を追求したい。

山田 浩久

(1) 研究成果

学術論文

「自然災害を考慮した土地評価の理論と現実」, 単著, 『地理』, 56, 121-126.

「自治体の交流事業が災害救援活動に果たす役割」, 単著, 山形大学紀要（人文科学編）, 17-3, 71-90.

学会発表

「防災施設が住民の防災意識に及ぼす影響」, 共同, 2011年10月, 東北地理学会

「自治体間の交流事業が災害救援活動に果たす役割」, 単独, 2011年11月, 人文地理学会

「地方都市の総合計画策定に関わる問題点」, 単独, 2012年3月, 日本地理学会都市圏研究部会

(2) 教育、地域連携等の活動

教育

基盤教育：地域の共生（共生を考える）

学部教育：地域構造論，地誌学，環境地理学演習，地域構造論演習，環境地理学調査実習，都市

地理学調査実習, 共生人間学 (一), 人間文化入門総合講義, 社会科の教材研究 A

大学院: 経済地理学特論Ⅱ, 経済地理学特別演習

地域連携

- 国土交通省国土地理院 地理空間情報産学官地域連携協議会委員
- 山形県総合政策審議会特別委員
- 山形県広域調整会議委員
- 長井市市民講座講師
- 長井市職員研修講師
- 高校への学部・学科説明会および模擬講義 模擬講義3校, 学部・学科説明会 校
- 山形大学東北創生研究所 研究員
- 山形大学工学部観光 MOT 検討委員会

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

科研費研究の最終年次にあたり, 研究の総括に多くの時間を費やした。地域連携に関わる研究・教育活動は概ね順調であり, 今後も政策提案を含めた実践的な活動を継続していく予定である。

山根 純佳

(1) 研究成果

山根純佳2011, 「ケア労働の分業と階層性の再編——『『関係的ケア』から周辺化される労働』仁平典宏・山下順子編『労働再審5 ケア・協働・アンペイドワーク』大月書店, pp. 103-126.

(2) 教育, 地域連携等の活動

2011年12月 谷地高校 合同大学等進学説明会での模擬講義

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては, 原発事故の伴う自主避難者への聞き取り調査を開始し, 調査対象者との関係構築し, 今後の調査の基盤をつくった。

前期は育児休業を取得したが, 後期には社会学のゼミ生卒論指導を再開し, 4年生9名が優秀な卒業論文を執筆することができた。

Ryan, Steven

(1) 研究成果

[論文]

Ryan, S. B. (2011). Highlighting the Merits and Demerits of High and Low Context Oriented Communication Cultures in Business: Fukushima nuclear accident and Japan's communication with the international community. In Editor Lijuan, D. (Ed.) International Proceedings of Economics Development and Research: Humanities, Society and Culture (ICHSC 2011), pp. 231-235, Vol. 20. Singapore: IACSIT press.

Ryan, S., Morita, M. and Suzuki, J. (2011). The Best Approach to the TOEIC Test. Getting the Point of Strategies. Tokyo: Shohakusha Press.

[学会発表]

2011. 11. Paper Presentation. Highlighting the Merits and Demerits of High and Low Context Oriented Communication Cultures in Business: Fukushima nuclear accident and Japan's communication with the international community. Proceedings of the International Conference on Humanities, Society and Culture (ICHSC 2011), Kuala Lumpur, Malaysia. November 4-6, 2011.

2011.6. Presentation. Identifying the Communication Strengths and Weaknesses of High and Low Context Communicators in a Cross-Cultural Business Context. The Asian Conference on Language Learning (ACLL 2011). Osaka, Japan.

2011. 1. Presentation. "How to Deal With Cross-Cultural Misunderstandings Between English and Japanese Speakers. Japan Association of Language Teachers (JALT). Yamagata Chapter.

(2) 教育, 地域連携等の活動

英語コミュニケーション上級, 英作文 (上級), 英語(c), 英語(R), 異文化間コミュニケーション

渡辺 文生

(1) 研究成果

《学会, 研究会などの口頭発表》

「日本語の物語作文における視点の表現とその指導について」ATJ 2011 Annual Conference, University of Hawaii at Manoa, USA, 2011.4. 2.

「語りの文章における視点の表現とその文脈について」CAJLE 2011 Annual Conference, University of Regina, Canada, 2011.8. 6.

「母語話者と学習者による日本語物語作文における連体詞としての指示詞の使用」AATJ 2012 Annual Spring Conference, Toronto, Canada, 2012.3. 15.

《出版物》

「対人関係への配慮と役割語的方言の使用」山形大学人文学部(編)『遠い方言・近い方言』pp. 26-39. 山形大学出版会

(2) 教育, 地域貢献等の活動

担当授業は, 日本語学概論(一)・日本語学特殊講義・日本語学講読・日本語学演習・日本語(二)・共生人間学(二)《以上学部専門科目》, 国語の教材研究A《以上教職科目》, 日本語意味論特論・日本語意味論特演《以上大学院科目》, 基盤教育科目(言語学)・基盤教育科目(日本語)。

地域貢献等の活動としては, 人文学部公開講座(2011年6月13日), 教員免許状更新講習(2011年8月2日), および山形地方裁判所労働審判員研修会(2011年12月2日)で講師を担当したほか, 佐渡高等学校(2011年7月8日), 山形南高校(2011年10月26日), 札幌北陵高校(2011年11月4日)において出張講義を行った。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動に関しては、研究分担者として2件の科学研究費プロジェクトに参加した。
学生の指導については、日本語学コース1名の卒業論文を担当した。

渡辺 将尚

(1) 研究業績

○著書 (論文集)

「片割れとなった者たち——マルティン・ヴァルザー『ドルレとヴォルフ』——」(『文学における不在』(原研二先生追悼論文集刊行会), 森本浩一他編, 201~212ページ)

○論文

「固定される聴取者, 明かされない過去——ジークフリート・レンツのラジオドラマ「迷宮」」(「山形大学人文学部研究年報」第9号, 171~184ページ)

渡邊 洋一

(1) 研究成果

- ・研究成果の発表に至らなかった。

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・4年生9名の卒業論文を指導した。
- ・「研究室訪問」で、福野光輝先生の協力を得ながら、山形県立新庄北高の5名の高校生に対して研究指導をした。平成23年8月。
- ・「大学説明会 in CIC 2011」において『大学で学ぶ心理学』と題して高校生・保護者に講演した。キャンパス・イノベーション・センター (東京, 平成23年6月5日)。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・特になし。

【法経政策学科】

赤倉 泉

(1) 研究成果

なし

(2) 教育, 地域連携等の活動

専門教育：アジア政治論, アジア政治論演習
基盤教育：中国語, 政治学入門

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、引き続き中国の民主化運動について取り組んでいる。

教育活動については、専門教育におけるアジア政治論の中で、東アジアに加えて東南アジアの国々も扱うようにし、より幅広い視野からアジア政治を概観できるようにした。

阿部 未央

(1) 研究成果

- (論文)「雇用形態差別に対する法的アプローチ—イギリス法とアメリカ法の比較研究—(二)」『法學』第75巻第1号39-87頁(東北大学法学会, 2011年4月)
- (論文)「雇用形態差別に対する法的アプローチ—イギリス法とアメリカ法の比較研究—(三・完)」『法學』第75巻第2号64-99頁(東北大学法学会, 2011年6月)

(2) 教育・地域連携等の活動

[教育] 労働法, 労働法演習, 社会保障法, スタートアップセミナー, 公務員講座
[地域連携]

- 厚生労働省「精神障害の労災認定の基準に関する専門検討会」委員(2010年9月~2011年11月)
- 山形地方最低賃金審議会 公益代表委員(2011年7月~2012年3月)
- 出張講義 秋田県立大曲高等学校(2011年11月)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では非正規雇用に関する論文を公表することができた。1年以上にわたり参加した「精神障害の労災認定に関する検討会」では、これまでの議論を「精神障害の労災認定の基準に関する専門検討会報告書」としてまとめ、指針の改正につながった。

和泉田 保一

(1) 研究成果

- 共著

「都市計画法における広域計画団体と狭域計画団体の役割分担の変容」榊原秀訓編『行政サービス提供主体の多様化と行政法 イギリスモデルの構造と展開』(日本評論社・2011年)205~233頁

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 担当授業

行政法Ⅰ, 行政法Ⅱ, 行政法演習, 総合講座Ⅰ(「条例による地域政策」)・Ⅱ(「公法」2コマ), 人文学部公務員対策講座(集団討論2コマを担当)

- 地域連携活動

[審議会委員]

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員(継続)

山形県医療審議会委員 (継続)

山形県簡易プロポーザル方式設計者選定委員 (単年度)

山形県市町村退職手当組合・退職手当審査会委員 (単年度)

[外部研修講師]

北陸地方整備局職員研修「法律 (I)」(7月)

山形市役所職員研修「行政法」(3月)

[出張講義]

宮城県立泉高等学校 (5月)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

ゼミ合宿を岩手県平泉町で行い、中尊寺・毛越寺等を見学し、世界遺産登録に関わる町当局の活動について実地で調査した。

平成21年度に実施したロンドンでの調査の成果として、冒頭に掲げた共著を完成、公表した。

また、本年度も約1週間ロンドンに滞在し、次作論文のための調査(国や地方自治体への聴き取り調査)を行った。

岩田 浩太郎

(1) 研究活動

[科研費]

- 科学研究費補助金・基盤研究(c)「幕末・明治初年の農業構造と地域社会－羽州村山郡における再検討－」(研究代表者)

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 基盤教育科目：山形と紅花の歴史(地域学)
- 専門教育科目：専門基礎演習，日本経済史，地域経済史，日本経済史演習

[委員会活動]

- 学部：法経政策学科長(主に取り組んだ課題：学科将来計画委員会の設立，学科将来計画及び長期人事計画の策定，DP・CP・APの作成，重点的な高校ヒアリングなど学科入試動向の調査分析，学科入試制度の改訂，各関連分野シラバスの相互検討会の実施，学部FD講演会の企画，休職教員復帰支援相談員など)，人事選考委員会委員(社会政策論)
- 全学：山形大学研究活動に関する行動規範特別委員会委員

[講演・講座]

- NPO法人柏倉家文化村主催／やまがた広域観光協議会・中山町共催：山形県NPO法人活動促進活性化事業・座談会「京文化と柏倉家」基調講演及びパネラー(2011年10月，於柏倉九左衛門家北蔵)
- NPO法人柏倉家文化村主催：山形大学人文学部日本経済史ゼミナール共同研究発表会「江戸後期の柏倉九左衛門家の金融活動」「柏倉惣右衛門家の金融と経営」報告(2012年3月，於柏

倉九左衛門家北蔵)

〔社会活動〕

- NPO 法人「柏倉家文化村」顧問
- 山形市社会教育委員（2011年4月～）
- 柏倉惣右衛門家所蔵古文書の整理保存・目録作成事業
- 奥羽史料調査会世話人（宮城県柴田郡村田町大沼正七家文書整理・目録作成・調査研究など）
- J R 東日本鉄道事業本部への協力〔①大人の休日倶楽部広報誌『ジパング』2011年5月号の特集記事の内容提供・編集協力（「第Ⅱ特集 紅花商人の栄華を商都・山形に訪ねる」監修）、②同倶楽部旅行企画への協力（「『紅花の山形路』紅花商人の歴史と紅花摘み体験の2日間」）〕
- 東日本大震災で被災した山形市の旧家蔵の古文書文化財の保全活動
- 山形県山形市の旧家や西村山郡河北町民からの古文書寄贈への対応
- ポストン大学研究員から依頼された紅花の歴史に関するレクチャーの実施

〔その他〕

- 「学科長インタビュー／公共政策コースの充実を検討しています」（人文ニュース『アゴラ』第43巻第2号，2011年12月）

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

平成23年度の特徴は、平成22年度と同様に法経政策学科長としての諸活動が中心となり、まとまった研究活動ができなかったことがあげられる。

研究活動では、科研費・基盤研究(c)のための諸調査（京都府立総合資料館、鶴岡市立郷土資料館、酒田市立図書館光丘文庫、庄内町立図書館、村田町歴史みらい館、館林市立図書館、佐野市郷土博物館、新潟県立文書館、両柏倉家、河北町谷地高関の旧家など）を実施した。なかでも、東日本大震災で蔵が被災した宮城県柴田郡村田町の旧家文書の調査を集中しておこなった。しかし、それらの調査成果を論文にまとめる時間がとれなかった。今後に期したい。

教育活動では、新設の専門基礎演習の準備など授業内容の検討を進めた。

社会活動では、J R 東日本「大人の休日倶楽部」企画に協力したり、NPO 法人からの要請に応えた講演や報告をおこなった。また、山形市内の地盤の悪い地域の旧家から、東日本大震災により蔵が損傷し解体することにしたので古文書資料を保全して欲しいという要請を受けたので、急遽保存の活動をおこなった。

学内の活動では、学科長として通常の諸雑務をこなすとともに、主要な活動として学科将来計画委員会を新設し学科の将来計画及び人事長期計画の策定をおこなった。とくにこれまで整備が遅れていた「公共政策コース」の充実化に向け新規科目＝新規人事の検討・提起と学科における議論・合意形成に努め、充実化計画を決定できた。平成22年度から方針検討してきた DP・CP づくりを各コース＝学位授与単位毎におこない策定した。また、これらと関連して、各関連分野＝科目の担当教員がそれぞれグループをつくり、シラバスの内容と相互関係を検討しあう会合を数回ずつ開催できたことは特筆すべき事柄となった。さらに、これらのグループでの話し合いをもとに学科構成員が足りない科目を検討し、学科会における人事公募に対応して新規科目＝新規人事の応募をそれぞれおこなうシステムをつくった。また、本学科の入試動向に関する検討を実施

した。入学者が増加している宮城県の高校など「重点的な高校ヒアリング」をおこなうとともに、ここ数年間の受験予備校や本学科入試成績の諸資料の分析を実施した。その結果、入試倍率の低下は少子化のほか高校側が受験者の精選をはかった結果であり、合格者の入試成績は必ずしも低下しておらず、むしろ高速バスによりアクセスが便利となった宮城県の高校の受験者増などにより合格水準は横這いしないしやや上昇してきていることなどをあきらかにした。それらをふまえて、前期・後期定員の振替など学科入試制度の改訂を提起し決定した。激務となった学科将来計画委員会及び入試方法検討部会メンバーをはじめ、学科スタッフの一連の協力に感謝している。

殷 勇

(1) 研究成果

国際学術受賞：

- Young Scientist Prize, 2011, Asian Conference of Management Science and Applications (co-author)
- Young Scientist Prize, 2011, International Conference on Production Research (co-author)

国際ジャーナル論文：

- 1. Y. Yin, C. G. Liu and I. Kaku "Cooperation and leadership policies in a serial supply chain", Journal of Manufacturing Systems, Vol. 30, No. 1, pp. 1-7, 2011.
- 2. Y. Yin, M. Li, I. Kaku and C. G. Liu "Design a just-in-time organization system using a stochastic gradient algorithm", ICIC Express Letters - An International Journal of Research and Surveys, Vol. 5, No. 5, pp. 1739-1745, 2011.

(2) 教育・地域連携等の活動

教育：

基盤教育：「スタートアップセミナー」、「経営及び生産」

専門教育：「経営情報」、「オペレーションズリサーチ」

大学院：「経営情報特論」

③研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては、以下の2点は評価できます。A. 二つの国際学会賞をもらったこと；B. 著名な国際ジャーナル Journal of Manufacturing Systems に論文を掲載すること。

小笠原 奈菜

(1) 研究成果

[論文]

「フランチャイズ契約における情報提供義務と「契約の性質」」山形大学法政論叢 第51・52合併号1頁

「私立学校における教育内容の変更と不法行為責任」山形大学紀要（社会科学）42巻1号25頁

[口頭発表]

「契約締結過程における説明義務違反の法的性質」（東北大学民法研究会，2011年12月1日，於

東北大学)

「情報提供の対象と法的効果」(国際取引法研究会, 2012年1月28日, 於 早稲田大学)

「契約締結過程における説明義務の法的性質」(消費者法判例研究会, 2012年3月16日, 於 早稲田大学)

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 教養教育科目: 判例を読もう (教養セミナー)
- 専門教育科目: 契約法入門, 債権各論, 民法演習, 専門基礎演習
(オムニバス方式) 総合講座Ⅱ (法律), 公務員試験対策セミナー

[地域連携]

人文学部・法学会共催講演会開催

山内進氏「中世ヨーロッパの裁判と現代司法」

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

科学研究費補助金(若手研究(B))の二年目として, 成果の公表を2本行ない, さらに, 口頭報告を3本行なうことができた。

教育について, 演習担当学生が増加し, きめ細かな対応が可能か不安だったが, 1人1人に目を配ることができた。

緒方 勇

(1) 研究成果

[著書・報告書]

【論文】安酸建二・緒方勇「利益調整行動と利益目標の達成圧力 - 期中における利益調整手段としてのR&D費用削減に関する実証研究 -」『管理会計学』第20巻第1号, 2012年, 3-21頁。

【依頼論文】緒方勇, 「企業ブランド価値評価の方法」, 『資産評価政策学』, 第14巻第2号(通巻25号), 10-16頁, 2012年3月。

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当講義] 会計学, 管理会計, 管理会計演習, 情報処理, 企業経営における人間行動, 管理会計特論Ⅰ(大学院), 管理会計特別演習(大学院)

[地域連携活動]

- 山形仙台圏交流研究会に書記として参加
- 東北地区の税理士を対象とした公開講座を行った(9月13・14日)
- 山形大学生協 監事

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

平成23年度は, R & D投資の関する経営者行動について分析し, 論文を日本管理会計学会の学

会誌である『管理会計学』に載せることができた。この研究分野はまだまだ開拓すべき領域が多く残されているので、引き続き研究を進めていく予定である。

教育活動については、新しく「企業経営における人間行動」という講義を行った。この授業では、学生との質疑応答を重視しており、一方通行の授業とならないように心掛けた。

貝山 道博

(1) 研究成果

[著書]

平成21・22・23年度科学研究費補助金（基盤研究(c)）研究成果報告書『高齢地域における地域公共交通システムのあり方—デマンド交通システムを中心として—』（是川晴彦, 砂田洋志, 下平裕之, 伊藤宣生各氏との共同研究）、貝山が編集し、あわせて序章と第1章を執筆、平成24年3月）

(2) 教育、地域連携活動

[担当授業]

- 学部：財政学（前期・後期）、経済数学（後期）、財政学演習（通年）
- 他機関（非常勤）：開発経済学（埼玉大学）（前期集中講義）、統計情報分析力（山形県職員育成センター）（90分／回、計2回）

[地域貢献活動など]

- 学外：東北地方社会保険医療協議会山形部会長、山形県長寿医療懇談会長、東北地方整備局入札監視委員会委員、山形運輸支局交通アドバイザー、山形県指定管理者審査委員会委員、社会保険診療報酬支払基金山形支部幹事、山形のみちづくり評議会委員、山形県市町村職員互助会組織問題検討委員会委員長、山形定住自立圏共生ビジョン構想委員会委員長
- 学内：山形仙台圏交流研究会座長
- その他：山形大学都市・地域研究所事務局長として、同研究所の賛助会員（地元企業）の獲得に努めた。また、同研究所主催の公開講座及び講演会を企画し、実施した。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

山形大学附属学校運営部長として、1年間附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の教育・研究活動の統括的管理・運営にあたった。

私が研究代表者になっている科研費（基盤(c)）の研究「地域公共交通システムのあり方—デマンド交通を中心として」についての調査・研究を行った。

その他に、是川晴彦教授が研究代表者となっている科研費（基盤(c)）の研究「中心市街地活性化」にも分担研究者として加わり、調査・研究を行った。

学部教育に関しては、通常のノルマをこなしたが、山形大学附属学校運営部長を兼務しているため、本来行うべき前期の経済数学の講義を免除してもらった。

金子 優子

(1) 研究成果

論文

『Social Service Contracting-Out in Korea and Japan: Municipal Governments, Nonprofit Contractors, and Local Residents』, The Korean Journal of Policy Studies, Vol. 26, No. 1, 2011年4月1日 (共著者: Juae Kim)

編著書

『独自開発データから読み解く公益法人の構造』, 多賀出版, 2012年1月20日 (共著者: 高橋朋一, 小林健太郎)

国際会議での発表

『Contribution of citizens' activity to community development in Japan - a pilot analysis based on the measurement of its size』, 国際生活時間学会第33回大会, 2011年8月3日

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当科目: 行政学 (前期), 公共政策論, 日本国憲法, 行政学演習, スタートアップセミナー
審議会委員

東根市情報公開・個人情報審査会委員

村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員

山形市行財政改革推進懇話会委員

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については, 外部研究資金 (平成19-20年度科学研究費補助金 基盤研究 C 研究課題番号: 19530229 「経済社会における公益法人の活動実態と期待される新たな役割に関する研究」) を得た研究の成果をとりまとめ, 単行本として刊行することができた (平成23年度科学研究費補助金 研究成果公開促進費)。「地域活性化のための市民活動量の計測とその寄与に関する研究」 (平成22-24年度科学研究費補助金 基盤研究 C 研究課題番号: 22530259) については, 研究の中間段階の成果を国際学会で報告することができた。日本学術振興会から委託を受けた二国間交流事業 共同研究「地方行政改革における非営利セクターの役割に関する日韓比較研究」 (委託研究期間: 2008年7月1日から2010年6月30日まで) の成果の一部を韓国の学術誌に掲載することができた。

教育活動については, プレゼンテーションソフトを利用することにより分かりやすい講義となるように努めた。また, 講義への学生の能動的参加を促すように, 対話型の講義に留意した。

北川 忠明

(1) 研究成果

論文: なし

その他: 書評「『創造的ユートピア』としての市民権と『寛容な共和主義』」(『風のたより』, 2011年)

「2011年度政治思想学会研究会「自由論題B」報告」(『政治思想研究』, 2011年)
「学生ボランティアの被災地支援」(『山形県の社会経済』, 2011年)

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当授業: 「政治と人間」(基盤教育), 「政治理論」(学部), 「政治理論演習」(学部), 「現代政治論特論」(大学院)

「現代政治論特演」(大学院)

地域連携: 長井市「ながい市民未来塾」講師
山形県明るい選挙推進協議会委員
その他地域連携室長としての業務

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

本年度も学内業務と翻訳・編集作業に大幅に時間が取られたため, 論文としてまとめる時間をとれなかったが, レオン・ブルジョワの連帯主義研究はある程度進めることができた。

教育については, 自由主義と民主主義をめぐる政治哲学的テーマをできるだけ分かりやすく伝えるよう, 工夫をした。

國方 敬司

(1) 研究成果

単著「イギリス農業革命からみたフェンとマーシュ」(東北学院大学『経済学論集』177号, 2011年12月), pp. 151-163.

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 【学会役員】比較家族史学会理事, 社会経済史学会評議員
- 【講演等】a) 山形大学人文学部公開講座「ペットボトル・リサイクルからみた循環型社会」2011年10月11日, b) 市民立大学タントまなべ学園「まちづくりとわたしたちの生き方」2012年2月22日など
- 【審議会委員等】山形新聞報道審査会委員, 三浦新七博士記念会評議員, やまがたECOマネジメントシステム外部評価委員, 山形市上下水道事業経営等懇話会委員など

③ 平成22年度の研究・教育活動に関するコメント

西洋経済史については, 授業内容を大幅に変更したため, 内容に精粗ができた。全体として, 授業構成に手直しが必要であると考え, 平成24年度の授業では問題点を修正して実施している。

今野 健一

(1) 研究成果

• 学会報告: 「教育における国家の役割と時間軸」〔第76回日本公法学会総会・第2部会報告〕(名城大学/2011.10)

- ・著書（共著）：芹沢斉＝市川正人＝阪口正二郎編『新基本法コンメンタール・憲法』〔別冊法学セミナー210号〕（日本評論社／2011.10）[*旧基本法コメシリーズのリニューアル版刊行に伴う加筆・修正]

(2) 教育，地域連携等の活動

担当授業科目

- ・学部専門科目：憲法Ⅱ，憲法Ⅲ，憲法演習Ⅱ，総合講座Ⅱ（法律），専門基礎演習
- ・基盤教育科目：日本国憲法（前期），教養セミナー

地域連携活動

山形市情報公開・個人情報保護審査会委員，山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では，日本公法学会総会において部会報告を行う機会を得た。2011年3月11日の東北大震災の影響もあり，学会報告の準備に十分手が回らなかったのが残念である。教育面では，自身の科目を担当したほかに，専門科目「総合講座Ⅱ（法律）」の代表を務めた。

是川 晴彦

(1) 研究成果

[科研費成果報告書]

- ・「安曇野市のデマンド交通システムに関する調査と考察」（『高齢地域における地域公共システムのあり方』の第2章）

(2) 教育，地域連携などの活動

[担当授業]

- ・学部：ミクロ経済学，応用ミクロ経済学，公共経済学，ミクロ経済学演習
- ・大学院：公共経済学特論，公共経済学特別演習
- ・基盤教育：「3.11東日本大震災～我々に問いかけていること～：震災復興の経済学」

[地域貢献活動など]

- ・山形県行政支出点検・行政改革推進委員会委員長
- ・山形県産業構造審議会委員
- ・山形県指定管理者審査委員会の外部委員
- ・ながい市民未来塾における講師
- ・長井市特別講座研修講師
- ・まちづくり人材連携強化事業（村山市）
- ・大学コンソーシアム やまがた夜話 講師
- ・天童まちづくり・市街地活性化懇談会委員

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

中心市街地活性化に関する研究(科研費研究)では、高崎市、長野市、東海市などの事態調査やヒアリングを行った。その結果、中心市街地活性化政策の課題に関する有益な知識や情報を得ることができた。また、他の科研費研究における研究分担者として、長野県安曇野市におけるデマンド交通システムの実態調査を行い、デマンド交通システムの構築において考慮しなければならない事項について研究成果を得ることができた。課税理論の研究では、前年度に引き続き、不完全競争市場を対象とした分析を継続した。

教育面では、前年度に引き続き、配布資料の更新を行い、受講生にとって要点が整理しやすい資料の作成につとめた。また、配布資料に記載する練習問題の数を増やし、受講生が講義内容の復習をしやすいようにした。大学院の講義では、受講生の基礎知識や研究目標のちがいに応じて個別に講義を行い、より高い教育効果が上がるようにした。

コーエンズ 久美子

(1) 研究成果

[判例研究]

「会社分割に係る新設会社が分割に伴う承継の対象とされなかった分割会社の債務について責任を負わないとされた事例」法政論叢53号1頁(2012年)

[口頭発表]

「会社分割に係る新設会社が分割に伴う承継の対象とされなかった分割会社の債務について責任を負わないとされた事例」東北大学商法研究会平成24年12月10日

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当授業] 専門基礎演習、商法I、商法II、商法演習I、国際取引法(理工学研究科)

[地域連携活動]

山形地方裁判所委員会委員、山形県消費生活審議会委員

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

会社法上の組織再編の制度として規定されている会社分割が、債務超過会社の再生手段として利用されている。利用しやすい制度として手続の簡略化が進められた部分を、濫用するものが散見されるところ、現行法の解釈の中でその防止策について検討した。

また、教育に関しては、とりわけ演習において学生が自分の見解を積極的かつ理論的に発言できるよう、口頭発表の仕方、その準備に関する指導に重点を置いた。

澤田 裕治

(1) 研究成果

・翻訳

○エルスペース・リード(著)、沢田裕治(訳)「危険な活動に対する責任：比較法的分析」〔『山形

大学法政論叢』第53巻, pp. 1～46, 平成24年3月]

・書評

○沢田裕治(書評):栗原真人著「イングランド銀行と陪審—1818年12月開廷期のオールド・ベイリ」
〔『香川法学』29巻3・4号〕〔『法制史研究61』, pp. 353-356, 平成24年3月30日〕

(2) 教育, 地域連携等の活動

■平成23年度の担当授業の紹介

〔山形大学における講義・演習等〕

- ・教養教育科目:基礎から考える法学, 基礎からの民法, 教養セミナー「民法の体系的理解を目指す」
- ・専門教育科目:西洋法制史, 西洋法制史演習

〔山形県立保健医療大学における講義〕 法学

〔山形県立産業技術短期大学校における講義〕 法学概論

〔山形市立済生館高等看護学校における講義〕 看護関係法規Ⅰ

〔調査研究〕結城章夫学長を団長とする「安達峰一郎」研究調査団の一員としてオランダ・ベルギーを訪問〔2011年5月9日～16日。として, ベルギーのルーヴェン・カトリック大学では, 安達研究に詳しいウィリー・ヴァンドワラ教授から聞き取り調査を実施し, オランダのハーグの国際司法裁判所において, 小和田恆氏(当時所長)と会談し, 同氏から裁判所に残る安達関係資料の情報を得るとともに, 今後の安達研究の在り方に関して指導と示唆を頂戴した。

〔人文学部主催学術講演会・都市研共催〕ルーバン・カトリック大学文学部東方学・スラブ学科日本学主任教授, 日本関係資料欧州協会会長のウィリー・ヴァンドワラ教授による国際学術講演会を企画し成功させた。

〔2011年オープン・キャンパスでの模擬講義〕7月30日のオープン・キャンパスにおいて講義名:「基礎から考える法学—『世界の良心』安達峰一郎と日本国憲法—」を実施

〔科研調査研究〕9月5日～21日。イギリスにて科研調査研究。ロンドンを中心とする現地調査を実施し, 併せてロンドン大学のポール・ミッチェル教授, オックスフォード大学のポール・ブランド教授及びセント・アンドリュース大学のジョン・ハドソン教授と面談し, 科研研究につきプレゼンテーションを実施して, 科研研究の基礎固めを図った。

■地域貢献活動

〔記念行事〕安達峰一郎記念世界平和の精神リレー行進〔2011年6月18日。山辺町と山形大学都市・地域学研究所の共催で実施。〕

〔記念行事〕第1回安達峰一郎記念世界平和弁論大会〔2011年11月26日。山辺町が生んだ世界的偉人「安達峰一郎」の平和の精神を受け継ぐ弁論大会として山形大学都市・地域学研究所と山辺町が企画した記念行事。中・高生を対象に実施〕

山形大学医学部附属病院医薬品等受託研究審査委員会委員

山形県立保健医療大学倫理委員会委員

山辺町・山形大学連携協定懇談会委員

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、前年度に引き続き、不法行為法の危殆化責任に注目してドイツ法と英米法との比較法的研究を継続し、エルスペース・リード「危険な活動に対する責任：比較法的分析」について研究した。

また、研究課題名「中世都市ロンドンの裁判と法の法社会史的研究」が平成23年度科学研究費補助金（基盤研究(C)課題番号23530002）として採択され、中世都市ロンドンの裁判と法に関する研究を本格的に開始した。

教育では、教養教育科目において、『対話 Dialogue19』と『対話 Dialogue20』と題するミニコミ誌を毎回発行し、学生同士と教員の相互コミュニケーションにより、講義内容の血肉化を図り、受講者から好評を得た。

下平 裕之

(1) 研究成果

[研究会報告]

- ・「テキストマイニングの分析事例について」(第33回経済思想研究会, 2011年7月16日, 東北大学)
- ・「テキストマイニングの応用事例：ケインズ『一般理論』と書評」(第36回経済思想研究会, 2012年2月5日, 東北大学)

(2) 教育・地域連携等の活動

・教育活動

山形大学における担当授業：

[学部] 経済思想, 経済学史, 経済学史演習, 地域づくり特別演習(夏季集中), 公務員講座(講義, 小論文指導)

[教養教育] スタートアップセミナー, 最上川俯瞰講義, 最上川の自然と文化

[大学院] イギリス経済学史特論, イギリス経済学史特別演習

非常勤：羽陽短期大学(経済学)

・地域連携活動

高校での出張講義：泉高校, 新庄北高校

山形大学東北創生研究所設立ワークショップメンバー(23年7月～12月)

山形大学東北創生研究所・社会創生研究部門長(24年1月～)

ながい市民未来塾講師

山形財務事務所財務モニター

大学コンソーシアムやまがた企画会議委員長

コンソーシアム委託事業(川西町)でのワークショップ指導

山形大学まちづくり研究所・仙山圏交流研究会への参加

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、科研費基盤研究(B)として採択された共同研究プロジェクトに関する研究

会を年度内に4回開催し、その内の2回において報告を行った。教育・地域連携活動については、東日本大震災を契機に東北地方の地域再生を考える「東北創生研究所」の設立に向けた取り組みに関わり、同研究所設立後は社会創生研究部門の部門長に就任した。

真保 智行

(1) 研究成果

- 「合併と発明者の生産性 – 三菱化学のケース –」, 組織学会 (慶應大学), 2011年6月
- Standardization and Its Accuracy of the Japanese Patent Applicant Names, IIPR Working Paper, 2012-01, 2012年3月

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 「経営学」「経営戦略論」「経営学演習」「企業経営特論」など
- 2012年2月, 模擬講義「スポーツドリンク市場での競争」(仙台東高等学校)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

特許の発明者データを利用して、合併のマネジメントに関する研究を進めた。

鈴木 明宏

(1) 研究成果

不平等回避が自発的な提携形成に影響するか? – 経済実験による分析 –, 数理社会学会 第53回大会, 2012.3

(2) 教育, 地域連携等の活動

教育

専門: ゲーム理論・産業組織論・意思決定論演習

基盤教育: 現代の経済理論

大学院: ゲーム理論特論

地域連携

仙山交流研究会・まちづくり研究会メンバー

出張講義 (福島県立橘高等学校)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

昨年度以前に行った実験で掲載されていないものについては、論文を改訂中である。学生の修士論文についても大幅に改訂中である。

鈴木 均

(1) 研究成果

研究成果

経済理論学会60回(愛媛大学)(10月7日)において「欧州ソブリン危機——EU, ECBの対応」の口頭発表を行った。

(2) 教育, 地域活動

・教育活動

山形大学における授業担当:

教養教育(スタートアップ・セミナー), ヨーロッパ経済論, 国際経済論, 国際経済論演習(専門科目), EU経済特論, EU経済特講(大学院)

・学会活動

経済理論学会(幹事), 日本EU学会, 国際経済学会

・地域連携等

山形県9条の会・憲法ネットワークの代表委員を継続して勤めている。

高齢者・雇用能力開発機構運営協議会委員

・その他

③ 教育・研究活動に関するコメント

今年度は研究について充実していた。今後発表する研究論文は2本が予定されている。

砂田 洋志

(1) 研究成果

- ・“Double Threshold GARCHモデルとその株価変化率への応用: ベイズ統計学を用いたパラメータ推定とモデル選択”, 山形大学紀要(社会科学), 第42巻第2号, 2012年2月, pp17-30.
- ・「長野県飯綱町のデマンド交通」, 『高齢地域における地域公共交通システムのあり方—デマンド交通システムを中心として—』(平成21-23年度科学研究費補助金研究成果報告書)の第3章, 2012年3月, pp47-69.
- ・「長野県東御市のデマンド交通」, 『高齢地域における地域公共交通システムのあり方—デマンド交通システムを中心として—』(平成21-23年度科学研究費補助金研究成果報告書)の第4章, 2012年3月, pp71-87.

(2) 教育, 地域連携等の活動

・担当授業

計量経済学, 統計学, 専門演習(学部), 情報処理(基盤教育), 計量経済学特論・特別演習(大学院), 計量経済学Ⅱ(東北公益文科大学・大学院)

・地域連携

山形県市町村職員共済組合における学識監事

山形・仙台圏交流研究会への参加

山形県統計利用アドバイザー

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

計量経済学関係の研究では、二重閾値 GARCH モデルの経済データへの応用を論文にまとめた。中心市街地活性化の研究では、「大型店撤退後の中心市街地再開発における経済行動分析」という題目の科学研究費補助金の分担研究者として長野市で調査をした。デマンドバスの研究では、「高齢地域における地域公共交通システムのあり方：デマンド交通システムを中心として」という題目の科学研究費補助金の分担研究者として長野県東御市と長野県飯綱町で調査を行い、報告書を分担執筆した。

教育関係では、講義ノートを配布するなどして、学生の理解を深めることに力を注いだ。

高倉 新喜

(1) 研究成果

- 高倉新喜「テーマ別事例分析① 訴訟手続の法令違反」『季刊刑事弁護』68号（2011年）54－57頁
- 高倉新喜「判例評釈・単独犯の訴因で起訴された被告人に共謀共同正犯者が存在するとしても、訴因どおりに犯罪事実を認定することが許されるか」『山形大学法政論叢』51・52合併号（2011年）37－48（逆）頁

(2) 教育、地域連携等の活動

- 専門科目：刑事訴訟法
刑事法基礎
刑事訴訟法演習
法と裁判
総合講座Ⅱ（刑事法3・刑事法4）
- 基盤教育：裁判員制度
- 地域連携
出張講義：新潟県立巻高等学校（テーマ：「法律学って、何やるの？」）
山形県介護保険審査会委員
山形県精神医療審査会委員
山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員
山形県弁護士会綱紀委員会予備委員

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

教育面においては、「法と裁判」の講義を初めて担当した。刑事訴訟法演習では、現地学習として置賜学院、山形少年鑑別所および山形刑務所の見学を実施することができた。

高橋 和

(1) 研究成果

- 学会報告

「越境地域協力と国境管理—シェンゲン条約をめぐる—」, 北東アジア学会第17回学術研究大会, 2011年10月2日 (北海学園大学・札幌市)

「EUの国境管理とビザ政策」, サブリージョン研究会 2012年2月4日 (早稲田大学)

・論文

「越境地域協力と国境管理—シェンゲン条約とヒトの移動の管理をめぐる—」, 多賀秀敏編『グローバル時代のマルチレベルガバナンス—EUと東アジアのサブリージョン比較』, 平成21年度～23年度科学研究費補助金研究成果報告書, 2012年3月, 89-100頁

(2) 教育・地域連携等の活動

○教育

- ・基盤教育 国際関係入門を担当
- ・専門科目 国際関係論, 国際公共政策, 地域の国際化, 国際関係論演習を担当
- ・大学院 国際関係特論Ⅰ, Ⅱ および 国際関係特別研究を担当

○地域連携

- ・山形県労働委員会公益委員
- ・山形県公立大学法人評価委員
- ・山形労働局 最低賃金審議会公益委員など

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

学部教育では, 平成21年度から採用しているクリッカーを使った授業を国際公共政策に取り入れ, 学生の主体的な授業への参加を促す試みを続けている。

大学院の授業では, 上記授業とともに, 修士論文の指導を行った。

高橋 良彰

(1) 研究成果

恩師の先生がなくなられたため追悼文を『消費者法ニュース No. 87』に掲載した。『明治時代史大辞典1』に掲載された「公証人」はだいぶ以前に執筆したもので, 執筆活動は全体に低調であった。科研費研究は, 最終年にあたり, 未調査であった各大学に調査にうかがった。

(2) 教育, 地域連携等の活動

講義は, 金融取引法入門, 親族法, 法学(教養), 演習など, 例年通りであったが, 今年度より総合講座の講義(二コマ)を担当した。また, 入試関係の調査をかねて県内・県外の高校訪問をこなしたほか, 出張講義も二度ほどいかがう機会があり(福島市内と米沢市内), 高等学校と関わりが多い年となった。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

震災の影響もあり, 研究活動とりわけ論文の執筆は十分に行えなかった。その中で, 計画していた調査をなんとかこなすことができたことは不幸中の幸いであった。

田北 俊昭

(1) 研究成果

■研究に関しては、項目①から⑮までである。

●研究発表では、国内会議では、①「高級果物における「地域ブランド」の評価について—日本山形産さくらんぼを事例として—（岡田真郁子と共著）」農業経済学会（5月）、②「高級米における地域ブランドの価値評価—山形産の新品種「つや姫」の優位性」応用地域学会（12月）を、国際会議では、③「Spatial Economics of Information Flow between Head and Branch Offices」と④「Economic Analysis of On-line Music」を Asian Conference of Management Science & Applications, December 21-22, 2011, Sanya で発表した。

●学会・研究会等サービスでは、⑤国内大学大学院地域科学セミナー（8月）（東北大川度セミナーハウス）での座長、⑥土木学会土木計画学研究発表会（富山大）（11月）において観光セッションの座長を務めた。

●論文は、⑦「観光地における「観光情報」の発信能力の分析と評価—山形県内市町村の観光ポータルサイトの事例—」（岩間弘親と共著）、山形大学紀要（社会科学）第42巻第2号（2月）を発行した。『蟹仙洞報告』No. 1,（10月）に、⑧「糠服大明神の湧き水とシルクとの関係（単著）」、⑨「多勢金上製糸・長谷川製糸上山分工場の上山進出の重要性について（一）」、⑩「同（二）」、⑪「長谷川製糸上山分工場における製造工程について」（3編は長谷川浩一氏と共著）の計4編を掲載している。

●外部資金では、⑫文部科学省科学研究費の挑戦的萌芽的研究「地域ブランドに関する都市・地域学的研究」（本年度分117万円のうち直接経費80万円と間接経費27万円）を獲得し、調査研究以外にも、⑬産学官間プロジェクトとして地域ブランド商品企画（守秘義務あり）へと進展している。

●研究会として、学内では⑭ゲーム論研究会に参加している。学外では、東北大での⑮地域科学ワークショップに参加している。

なお科研費の「創造的地域ブランド戦略構築」（⑦から⑪、⑬）および「地域ブランドの経済分析」（①と②、⑮）とも関係する。

(2) 教育、地域連携等の活動

■教育に関しては、項目①から⑮までである。

●教養・学部では、①スタートアップセミナー（1年）、都市経済と情報（1年）、地域科学（2年）、経済情報科学（2年後期）、経済情報科学（3年前期）、経済情報科学演習（3・4年）、大学院では、②社会経済システム特論・特別演習と特別研究を行っている。③卒業論文指導を2名（菊地・大槻）、④大学院生の研究指導1名を行った。●研究発表会として、⑤卒業研究・大学院生研究発表会（2月）を白布温泉西屋で行った。●大学・大学院間研究交流では、⑥地域科学セミナー（8月）で、学部学生2名（菊地および大槻）および大学院学生（吉田）1名が発表した。●教育における地域社会連携で、⑦学生シンポジウム「山形の地域ブランド再発見・発掘—魅力ある山形を知ってみんなで創ろう」（8月）をスタートアップ学生が企画運営を行った。その他、⑧夕鶴の里（語り部による「鶴の恩返し・白竜湖」・田北の「養蚕・生糸関係の説明」）・赤湯温泉（田北「羽前エキストラ・民話の里づくり」）・白竜湖（旅館組合関係者と視察）（8月）では旅館組

合役員・地域経済系学生4名, ⑨米沢織・研究室連携の山形御殿堰展示の羽前山形の世界最高級「羽前エキストラ」(8月)で希望者2名が参加した。●教育社会連携プログラムとして, ⑩上山城シンポジウム「羽前エキストラシルク遺産と上山分工場」(主催:上山城管理公社・蟹仙洞・齋藤茂吉記念館3館共同)(10月)と⑪製糸工場外観・居宅見学説明会(シンポ当日10月・11月)については, それぞれ地域経済(地域科学・経済情報科学・演習)学生が参加した。⑫高級果物「ラ・フランス」のブランド価値に関する調査(10月・1月)を大学院生・学生と東京銀座アンテナショップで行った。なお科研費の「創造的地域ブランド戦略構築」(⑦から⑪)および「地域ブランドの経済分析」(⑫)とも関係する。

■社会連携に関しては, 項目①から⑫である。

●生涯学習支援(公開講座講師, 講演会講師)として, ①「羽前エキストラシルク遺産と上山分工場」(主催:上山城管理公社, 共催:山形県生涯学習財団, 山形大学田北研究室・永井研究室)コーディネーター(10月)をした。②きものDEやまがた実行委員会講師(3月)を行った。南陽市農業委員会講師(2月), ③南陽市市民団体「勝手連」講師(11月)も務めた。その他, ④都市地域学研究所の公開講座や講演会等にも地域ブランド化の視点から関係(松尾・貝山は科学研究費共同研究者)した。●高大連携として, ⑤新庄北高校等最上地域3校の高校訪問(9月)を行った。●自治体等委員では, ⑥山形県山辺町諮問委員(平成23年度)を務め, ⑦山辺町の地域ブランドの知的財産関係会議(9月)を行い, ⑧安達峰一郎や地域資源を核にした地域振興・ブランド化に加わっている。宮城県庁・仙台商工会議所で⑨「東日本大震災地域の復興に関する提案」を行った。また, ⑩農学部及び農林水産省森林管理局の連携協定の活動で「産業振興」の部分で参加している。●学外団体との研究会への参加について, 「羽前エキストラ関係」では, 第1回は, ⑪田北(山形大)・杉本(静岡大)・大沼(協同薬品)「山形から世界を目指す「地域ブランド戦略」を共同発表(10月)し, ⑫食の祭典(企画商品試作)を行っている。また, 第2回は, ⑬「羽前山形から世界を目指すブランド戦略」(1月)を行った。●産業支援としては, ⑭羽前エキストラシルク準備会(10月)を立ち上げている。羽前エキストラシルクプロジェクトとして, ⑮農林水産省・県市町村・商工会議所, 米沢繊維組合連合会・蟹仙洞博物館・民間関係者等と個別グループ会議を行っている。財団・企業・行政等関連団体の財団支援の獲得の準備を進めている。⑯「産学勉強会を農協関係者と杉本氏(静岡大)「農協情報システムと地域ブランド化」(10月・12月)とを行っている。●その他マスコミ等への取材協力では, 原稿依頼は2件であり, ⑰「B級ばやりブランド心配」河北新報11月15日第5面, ⑱「提言 山形の特産は「B級」か」山形新聞12月2日第7面である。掲載記事としては, ⑲「高品質生糸や旧製糸工場“絹文化を考える”」がある。その他, ⑲都市地域学研究所関係である。なお科研費の「創造的地域ブランド戦略構築」(①から④, ⑤から⑫)とも関係する。

■管理運営については①から④である。

●学部委員会として, ①学部広報委員会副委員長および②広報委員会広報部会長として年数回の会議に出席した。AGORAと学部案内の膨大な時間を有する編集作業にあたった。③大学コンソーシアムとの連携(学部広報誌クイズの掲示・プレゼント企画)等の新しい試みも行った。●学部紀要では, ④編集委員会が年2回各3回程程度計6回程程度の会議, 投稿論文等の審査・討論を行っている。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

■以上のように多忙な1年だったが、ひとつのスタイルができた。

立松 潔

(1) 研究成果

◆論文

「東日本大震災の影響と経済復興への課題」(『山形県の社会経済・2011年 年報第24号』山形県経済社会研究所発行, 2011年11月20日, pp. 20-32)

◆報告書・テキスト等

山形大学基盤教育院編集・発行『能動的学習のために』2012年2月29日

山形大学基盤教育院基盤教育評価改善会議『山形大学基盤教育評価改善報告書 平成23年度』2012年3月31日

(2) 教育, 地域貢献等の活動

■担当授業の紹介

○基盤教育科目

「スタートアップセミナー (人文学部法経政策学科)」

「Jリーグと地域社会」(教養セミナー)

○他の教員との共同で担当する基盤教育科目

「現代社会の諸問題」(基幹科目・共生を考える) 1回担当

○専門教育科目

「日本経済論」前・後期

「地域経済論」後期

「日本経済論演習」通年 (卒論指導も含む)

○オムニバス科目 (他の教員と共同で担当) の専門教育科目

「公務員対策セミナー」事務局担当。講義, 集団討論演習, 論作文演習担当 (計4回)

「総合政策講座Ⅲ」(経済・経営): 1回担当

○大学院

「日本産業構造分析特論Ⅱ」

「日本産業構造分析特別演習」

「特別研究Ⅰ」

「特別研究Ⅱ」

■地域貢献活動

○審議会委員等

山形県職業能力開発審議会 (会長)

山形県労働委員会 (会長)

寒河江市地域づくり委員会 (会長)

山形市地産地消の店認定委員会 (委員長)

○出張講義等：

新庄北高出張講義 2011年10月21日

テーマ：経済環境の変化と必要とされる人間力

須賀川桐陽高校出張講義 2011年11月2日

テーマ：中心市街地活性化と街づくり

高畠高校出張講義 (観光振興学習コースの生徒向け) 2011年11月25日

テーマ：「東日本大震災の観光への影響」

高畠高校出張講義 (2年生向け) 2011年12月14日

テーマ：「失われた20年と雇用の変化」

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

平成23年度は東日本大震災による大きな被害を目のあたりにし、その影響と経済復興への課題についての研究に取り組み、山形県経済社会研究所の年報にその一部を発表することができた。また、その成果を担当する授業 (日本経済論、地域経済論) にも盛り込んだ。春休みに実施する公務員対策セミナーはその実施途中に震災に見舞われ日程の変更を余儀なくされたが、補講を実施するなどして学生の要望に応えることができた。

戸室 健作

(1) 研究成果

[論文]

- ・戸室健作「山形県における労働市場の動向」『山形県の社会経済・2011年』山形県経済社会研究所、2011年12月20日、54-64頁

[事典]

- ・戸室健作「グローバリゼーションと人事労務管理」労務理論学会編『経営労務事典』晃洋書房、2011年6月30日、50-51頁。

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当授業科目]

- ・基盤教育科目：社会政策と共生、スタートアップセミナー
- ・専門教育科目：社会政策論、社会保障論、社会政策論演習、卒業論文指導、法経政策総合講座 I (オムニバス1回担当)
- ・大学院：社会政策特別演習、社会政策特論Ⅱ
- ・その他：公務員対策セミナーの講義と論作文指導

[学会活動]

- ・戸室健作「第23回大会報告記 2) 自由論題 I : 労使関係・労働運動 (2011年10月29日 [土])」『日本労働社会学会通信』第24期第1号、2012年2月5日。

[科研費等]

- 科学研究費補助金・基盤研究(B)「地方公務員の雇用・生活と成果主義人事・給与に関する研究」(研究分担者)

[地域連携等]

- 連合山形寄付講座「労働と生活」の創設
- 日本科学者会議山形支部会計監査員

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

地域の労働市場に関する研究を新たに開始した。教育活動では3年生と4年生の合同ゼミを初めて受け持つとともに、スタートアップセミナーも初めて担当した。地域連携活動では連合山形寄付講座を開設するために努力した。

中島 宏

(1) 研究成果

[判例評釈]

- 中島宏「労働者災害補償上の外貌醜状障害に関する男女間格差の合憲性」山形大学法政論叢53号(2012年3月)47～63頁

[研究報告]

- 「フランスにおける『ブルカ禁止法』と『共和国』の課題」(全国憲法研究会春季研究総会, 2011年5月14日, 東京経済大学)
- 「空知太神社事件最高裁判決と目的効果基準」(宗教学会秋季学会, 2011年11月5日, 東京基督教大学)
- 「労働者災害補償上の外貌醜状障害に関する男女間格差の合憲性」(東北大学公法判例研究会, 2012年1月21日, 東北大学)

[学会活動]

- 2011年度全国憲法研究会学会企画委員

[通訳]

- ミシェル・ヴィヴィオルカ教授(フランス社会科学高等研究院)講演会「倫理と人権—政治への回帰?」(2011年9月28日, 慶應義塾大学)

(2) 教育, 地域連携等の活動

[教育]

- 専門科目: 憲法I, 比較憲法, 憲法演習I
- 教養科目: 日本国憲法, 教養セミナー「マンガ規制を考える」

[地域連携]

- 山形市個人情報保護制度運営審議会委員, 天童市情報公開・個人情報保護審査会委員
- 大学訪問講義: 会津学鳳高校(10月)

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では研究報告を三回行い、また著名な研究者の講演会通訳を担当する機会に恵まれた。特に震災後の緊張感冷めやらぬ中で行った5月の研究報告は忘れ難い。教育面では、二回目の担当となる憲法Ⅰ及び比較憲法の内容の刷新と、初めての担当となる教養セミナーの準備のために時間を割いた。

行方 久生

(1) 研究成果〈1〉

- * 「東日本大震災における『被災者』の位置を考える」(『自治と分権』2012年1月, P56~63)
- * (対談) 戸羽太(岩手県陸前高田市市長)(『自治と分権』2012年1月号)
- * (対談) 菅野典雄さん(福島県飯舘村長)(『自治と分権』2011年10月号)
- * (対談) 渡辺治(一橋大学名誉教授)「3.11後の政治再編と運動の課題」(『自治と分権』2011年7月号)
- * 根本到(大阪市立大学)+城塚健之(弁護士)+行方久生「公務員制度改革シンポジウム」(『自治と分権』2011年10月号)
- * (対談) 田中全(高知県四万十市長)(『自治と分権』2011年4月号)

【書評】

- * 佐藤栄佐久『福島原発の真実』(平凡社新書), 『自治と分権』2012年1月, P84~96
- * 都留民子『失業しても幸せでいられる国』(日本機関紙出版センター), 『自治と分権』2011年4月, P86~P98
- * 中野剛志著『TPP 亡国論』(集英社新書), 『自治と分権』2011年7月, P115~129
- * 小出裕章『原発のウソ』(扶桑社)『原発は要らない』(幻冬舎), 『自治と分権』2011年10月, P89~102

研究成果〈2〉

- * 研究費補助金・基盤研究(B)「地方公務員の雇用・生活と成果主義・人事・給与に関する研究」(研究分担者)

(2) 教育・地域連携活動

- * 地方財政論演習
- * 地方財政論
- * 基礎演習(前期)
- * 人間の経済学(基盤教育院)
- * 自治体論(後期)
- * 総合講座Ⅰ・Ⅲの分担

地域連携では、市民団体の「県民講座」(土曜日2回)を毎年担当してきた。また、市民団体や各種団体における講演(財政・経済・社会その他)を年間約30回実施。学生の就活サークル aim の顧問などを担当してきた。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

3.11東日本大震災後は、様々な社会調査やボランティア活動などを行ない、「行動」中心の生活となっていたため、研究業績は限定された。日本という国がどうい国であるのか、非常によく理解できる状況が生まれ、学生と共に、日常的な講義や演習を通じて、この問題を考えるように努力した。業績は減少したが、充実感はある。

西岡 正樹

(1) 研究成果

〔論説〕

「不作為による幫助に関する一考察」法学75巻6号（2012年）140頁以下。

(2) 教育・地域連携等の活動

〔教育〕

①担当授業科目 専門教育：刑事法基礎（刑法担当）、総合講座Ⅱ（法律）、刑法Ⅰ、刑法Ⅱ、刑法演習Ⅱ

〔地域連携等〕出張講義 宮城県立石巻高等学校

取材協力 山形新聞

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

平成22年度から山形大学人文学部に赴任し、2年目となる今年度は新たに受け持つ科目の授業準備等もあったが、諸先生方の協力の下で教育・研究活動に専心することができた。研究活動としては、昨年度から取り組んでいた不作為と共犯に関する研究の一部を公表した。また、専門とする刑事責任論に関して累犯加重規定と責任概念に関する研究を継続して行った。

西平 直史

(1) 研究成果

西平直史：むだ時間システム表現を用いたサプライチェーンシステムの一解析－サブシステムが2つの場合－；山形大学人文学部研究年報，第9号，69/73（2012）

(2) 教育，地域連携等の活動

教育：経営システム，応用情報処理，情報・システム論演習，スタートアップセミナー，観光と経営を担当した。また，大学院では経営システム特論を担当し，修士論文の指導を行った。

地域連携：山形仙台圏交流研究会への参加，高校への出張講義などを行った。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、従来から進めているむだ時間システム表現を用いたサプライチェーンの解析についての結果を得ることができ、論文として公表した。また、まちづくり研究所の研究の調査も進めている。

教育では学部や基盤教育の授業に加えて、大学院生の修士論文の指導を行った。

野田 英雄

(1) 研究成果

〔査読つき論文〕

1. Noda, H., "R&D-Based Models of Economic Growth Reconsidered," *Information: An International Interdisciplinary Journal*, 15(2), pp. 517-536, February 2012.
2. Noda, H. and K. Kyo, "Smoothness Prior Approach to Capturing Rapid Changes in Time-varying TFP and Application to the Chinese Economy," *Journal of Economic Research*, 16(2), pp. 127-146, August 2011.
3. Kyo, K., H. Noda and G. Kitagawa, "A Batch Sequential Approach to State Space Modeling for Trend Estimation," *ICIC Express Letters: An International Journal of Research and Surveys*, 5 (8 A), pp. 2479-2489, August 2011.
4. Noda, H., "Population Aging and Creative Destruction," *Journal of Economic Research*, 16(1), pp. 29-58, May 2011.
5. 野田英雄 "Why Employment Promotion Policies for Older Workers Matter," 『経済政策ジャーナル』第8巻, 第2号, pp. 15-33, 2011年5月.
6. Kyo, K. and H. Noda, "A New Algorithm for Estimating the Parameters in Seasonal Adjustment Models with a Cyclical Component," *ICIC Express Letters: An International Journal of Research and Surveys*, 5 (5), pp. 1731-1737, May 2011.

〔ディスカッション・ペーパー〕

1. Noda, H. and K. Kyo, "Bayesian Estimation of the CES Production Function with Labor- and Capital-Augmenting Technical Change," Yamagata University FLSS Discussion Paper Series, No.2011-E01, June 2011.

〔国際会議における研究報告〕

1. Noda, H. and K. Kyo, "Product Development Game in a Quality Ladder Model: Management Strategies and Economic Growth," 2011 Asian Conference of Management Science and Applications (ACMSA2011), December 2011, Sanya, Hainan, China.
2. Kyo, K. and H. Noda, "Bayesian Analysis of Dynamic Relationship between Oil Price and Industrial Production Performance in Japan," 2011 Asian Conference of Management Science and Applications (ACMSA2011), December 2011, Sanya, Hainan, China.
3. Kyo, K., H. Noda and G. Kitagawa, "Bayesian Estimation of Dynamic Matching Function for U-V Analysis in Japan," 31st International Workshop on Bayesian Inference and Maximum Entropy Methods in Science and Engineering, July 2011, Waterloo Inn Conference Hotel, Canada.
4. Kyo, K., H. Noda and G. Kitagawa, "A Batch Sequential Approach to State Space Modeling for Trend Estimation," Fourth International Symposium on Intelligent Informatics (ISII2011), May 2011, Qingdao University, China.

〔国内学会における研究報告〕

1. 姜興起・野田英雄・北川源四郎「動的 U-V 分析のベイズ的方法とその応用」2011年度統計関連学会連合大会, 2011年9月, 九州大学.
2. 野田英雄・姜興起“Bayesian Estimation of the CES Production Function with Labor- and Capital-Augmenting Technical Change,” 日本経済政策学会第68回 (2011年度) 全国大会, 2011年5月, 駒澤大学.

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔学内担当講義〕

マクロ経済学, 応用マクロ経済学, マクロ経済学演習, 経済学の思考法入門, 法経政策専門基礎演習, マクロ経済学特別演習

〔出張講義〕

山形県立新庄南高等学校 (2011年10月)

〔地域連携活動〕

山形県経済動向研究会メンバー

〔その他〕

1. 国際ジャーナルおよび国内学術誌の査読 (*Economic Change and Restructuring*, *Journal of Institutional and Theoretical Economics*, *European Journal of Operational Research*, *Letters in Spatial and Resource Sciences*, 応用経済学研究, 九州経済学会年報, 経済学研究)
2. Board of Directors of Asian Association of Management Science and Applications

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

〔研究〕

平成23年度から次の3つのテーマに関する研究に着手した。

1. 日本の労働市場の動的構造と失業要因のベイズ統計分析
2. 原油価格変動が日本のマクロ経済パフォーマンスに及ぼす影響の時系列分析
3. 汚染削減活動における kindergarten rule と持続的成長のマクロ動学分析

〔教育〕

教員の解説を積極的にメモする習慣が身についておらず、「自宅のソファに座ってテレビを観るような感覚」で受講している学生の増加傾向が気がかりである。

藤田 稔

(1) 研究成果

「2010 判例回顧と展望 経済法」法律時報第83巻6号 (5月臨時増刊号) 225-233頁 (2011年5月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

「経済法1」「知的財産法」「経済法演習」「法的なものの考え方と知的財産権 (法学)」「スター

トアップセミナー」と、「総合講座1（公共政策）」の1コマを担当。(その他、東北学院大学で、非常勤講師を務めた。)

山形労働局で個別労働紛争調整委員として、労働紛争の解決のあっせんを行った。

独占禁止政策協力委員として、独占禁止政策のあり方について、公正取引委員会に対して、意見を述べた。

山形県弁護士会綱紀委員会委員として、弁護士倫理の維持に協力した。

日本経済法学会理事として、学会の運営に従事した。10月15日には、日本経済法学会全国大会を小白川キャンパスで開催し、主催校としての任を果たした。

東北経済法研究会で座長として研究を行った。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

判例研究を通じて独占禁止法の法運用に関与した。

伏見 和史

(1) 研究成果

特筆すべきものはない

(2) 教育・地域連携等の活動

*下記の授業を受け持ち担当した

「企業活動と法律」(全学1年生対象)

「法的考え方入門」(全学1年生対象)

「スタートアップセミナー」(人文学部法経政策学科1年生対象)

「国際取引法」(人文学部法経政策学科3・4年生対象)

「国際取引法演習」(人文学部法経政策学科3・4年生対象)

「国際契約論」(工学部理工学研究科MOT院生対象)

「キャリアガイダンス」(人文学部2・3・4年生対象)

*地域連携のための活動は下記の通りである

1) NPO法人「プロネット」会員として、弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、社会保険労務士、土地家屋調査士等と共に、山形県において経済活動に携わる依頼者への助言

2) 山形県「入札監視委員会委員」として、県の入札案件に関してのチェックとアドバイス

3) 山形県「知的財産管理審査会委員長」として、県の知的財産権の保有、維持、管理に関してのチェックとアドバイス

*人文学部進路指導委員会副委員長、全学就職委員会委員

人文学部学生の就職支援活動の一環として民間企業を多数訪問して人事部採用担当者と面談し、山形大学学生の特徴を紹介するとともに企業の採用方針や企業の求める学生像についてディスカッションし、これを学生にフィードバックすることによって学生の就職活動の一助とすることを目

指した。さらに学生のインターンシップ研修にあたって事前の助言・指導を入念に行い、研修後のレポート作成にあたっての指導を徹底して行うことによって仕事との関わりを深く自己分析させこれを具体的に表現させることによって地に着いた就職活動をおこなえるヒントとさせた。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

人文学部学生の進路傾向は地元・公務員志向が強いことである。一方、経済環境は世界同時不況と産業空洞化が加速されつつある。よって、学生へのアプローチでは、地域をしっかりと見据える「蟻の眼」と世界全体を見渡す「鳥の眼」とをもって勉強し、生活することの必要性・重要性を語っていきたい。

星野 修

(1) 研究成果

研究会報告「合わせ鏡の中の近代—M. ウェバーと C. シュミットの世俗化論—」

(藤原帰一氏、吉岡知哉氏主催『近代化と宗教研究会』2011年9月)

(2) 教育、地域連携等の活動

比較政治学（後期4単位）、比較政治学演習（通年4単位）、政治思想史（前期2単位）、政治学入門（後期2単位）

〈学内委員〉

法経政策学科運営委員会委員

〈外部委員〉

山形県共同募金会改革検討委員会委員長（2011年6月～）

洪 慈乙

(1) 研究成果

- ・日本簿記学会の簿記教育研究部会における「企業会計の黎明と簿記会計教育」の中間報告

(2) 教育、地域連携等の活動

学部担当授業

- ・専門科目：会計学、財務会計、会計学演習、
- ・基盤教育：企業会計入門（経済学）前期・後期

大学院授業

- ・比較会計学特論、比較会計学特別演習、企業経営特別研究および修士論文作成の指導

地域連携

- ・山形仙台圏交流研究会およびまちづくり研究会への参加
- ・税理士会（東北）研修会の公開講座（講師）
- ・山形中央高校への出張講義

松本 邦彦

(1) 研究成果

松本邦彦 (監修, 執筆)

『異郷と同胞：日本と韓国のマイノリティー (山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー・コレクション第2集)』

山形大学人文学部編集／山形大学出版会刊

2011年09月30日発行／A 5判52頁／本体価格286円

(2) 教育, 地域連携等の活動

○学内の教育活動として

・担当科目 (専門教育)

日本外交論, 日本外交論演習, 日本政治論, 総合講座1 (公共政策) (オムニバスで1回担当), 地域づくり特別演習 (二) (山崎彰先生と共同担当), 公務員対策セミナー論文演習 (3回担当), 日本外交論特論 (大学院)

・担当科目 (基盤教育)

スタートアップセミナー (導入科目), 多民族共生の現実と課題 (基幹科目), 現代社会の諸問題と共生の実現 (基幹科目) (オムニバスで1回担当)

○学外者向けの活動として

- ・人文学部公開講座「ポスト震災を考える：これからの社会のあり方」で「第4回 なぜ戦後日本人は原発を信じてきたのか」を担当 (10月18日)。
- ・「第一回 安達峰一郎記念世界平和弁論大会」にて, 幕間に講演「二つの時代を生きた安達峰一郎」 (11月26日土曜日)
- ・県立新庄北高生の研究室訪問 (7月)
- ・山形国際ドキュメンタリー映画祭の期間中に, 特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭と人文学部との共催で映画監督お二人を招いての国際学術講演会 (10月) を企画。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

地域の文化団体, 市民団体との協働活動には大きな進展がありましたが, 研究面では不足の点が多かった年でした。

丸山 政己

(1) 研究成果

本年度は公表できる成果はなかったが, 主として以下の研究に従事した。

- ・稲盛財団平成23年度研究助成「国連安全保障理事会と国際刑事裁判所の関係—平和と正義の両立に向けて—」

(2) 教育, 地域連携等の活動

[教育]

- 担当科目：国際法，国際組織法，外書購読Ⅲ，国際法演習，総合講座（公共政策）
国際組織法特論，国際組織法特別演習（大学院）
- 学部国際交流委員，CALL演習室運営委員
〔地域連携等〕
- 山形大学都市地域学研究所，安達峰一郎研究，第2次ベルギー・オランダ調査に随行（2011年11月）

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

本年度から，2年間の学外業務に携わるようになった。その業務負担が思いのほか大きく，研究成果を出せなかったことが残念である。それでも，上記の研究助成を受け，2012年2月には，オランダ・ハーグに所在する国際刑事裁判関係機関の訪問・調査を実施し，多くの着想を得ることができた。未だ論文を公表するに至っていないが，研究は継続している。また，公刊は次年度になるが，「国際法外交雑誌」掲載の論文執筆にも取り組んだ。

教育に関しては，昨年度までの国際人権法に替わって国際組織法を開講することになったため，その準備に追われた。学生にとっては，人権法に比べると，国際組織は遠い存在に感じるようで，関心を涵養することに苦勞した。また，本年度は外書購読を担当し，国際司法裁判所のコンボ独立宣言に関する勧告的意見を読んだ。少人数ではあったが，学生の積極的な参加により，たんなる英文読解にとどまらず，内容についてもかなり深い議論ができた。授業負担の事情により開設停止は致し方のないことではあるが，外書購読の授業はことのほか教育効果が高いと感じた。

安田 均

(1) 研究成果

A. 学会・研究会報告

- 「消費における労働」第37回仙台経済学研究会（（東北大学人文系総合研究棟11.08.22）

B. 著書・論文

- 「生産的労働概念再考」経済理論学会『季刊経済理論』，第48巻第2号（2011.7）

(2) 教育，地域連携等の活動

A. 授業

経済原論（4単位），市場と組織（2単位），「専門基礎演習」（2単位），「市場経済」（2単位），学部共通科目「地域社会論」（2単位，非常勤講師の紹介，毎回のレポート及び単位評価担当）

公務員講座（春休み，講義1コマ，論作文2コマ）

宮城学院女子大学「経済理論」（4単位），「経済社会特論」（2単位）

B. 地域連携

- 出張講義・模擬講義

「福島県立会津学鳳高校（2011年10月18日，山形大学への大学訪問），福島県立福島東高校（同11月1日，同左），宮城県立富谷高校，同11月10日，同左），宮城県立石巻西高校（2012年3月16日）

- 「働く者たちのセイフティ・ネット」連合山形活動家養成講座（11.10.15）

- 解説記事「もう1つの市場」(山形県経済社会研究所『山形県の社会経済・2012年』(年報第24号, 2011年11月)
- 解説記事「経済指標の解説」(連合山形『春季生活闘争方針』, 2012年2月)
- 人文学部と山形県村山総合支庁との共同研究「山形・仙台圏交流研究会」に毎月参加。

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

「専門基礎演習」ではテキスト報告の後の議論があまり活発でなかった。一通り意見は出し合っても議論として噛み合っていなかった。その場でコメントを書き出して交換するなど一層の工夫が必要だろう。

学外団体から要請される経済指標等の解説記事の執筆,あるいは共同調査への参加は研究の門口を広げてくれるので,時間の許す限り引受けたい。

山口 昌樹

(1) 研究成果

翻訳書

- ポール・ド・グラウエ (田中素香・山口昌樹共訳)『通貨同盟の経済学』, 勁草書房

論文

- 「中国における外国銀行の立地選択」『世界経済評論』2011年7/8月号, pp. 56-62
- "What drives strategic foreign bank investments in Vietnam?"『社会文化システム研究科紀要』第7号, pp. 1-13, 山形大学

学会報告

- 「アジアへの外国銀行の進出」信用理論研究会 2011年秋季大会, 桃山学院大学, 2011年9月17日
- 「外国銀行の進出と信用供給の安定性」日本金融学会北海道部会, 北海学園大学, 2011年11月5日
- 「地方銀行によるタイ国銀行との業務提携-誘因と実態の解明-」東北経済学会, 富士大学, 2011年12月10日

(2) 教育, 地域貢献等の活動

教育

- 担当授業: 教養セミナー, 金融論, 国際金融論, 証券経済論, 国際金融論演習, 国際金融論特論II, 国際経済法務特別研究I

(3) 平成23年度の研究・教育活動に関するコメント

腰を据えて研究に打ち込むことができた。人文学部の教職員の方々に感謝したい。